

令和6年度 第8回 市民と議会との意見交換会 報告書



伊 那 市 議 会

目次

1	第8回市民と議会との意見交換会の概要	・ ・ ・ ・ ・	4
(1)	趣旨	・ ・ ・ ・ ・	4
(2)	開催日時、会場、内容及び参加者数	・ ・ ・ ・ ・	4
2	主な検討テーマについて	・ ・ ・ ・ ・	6
3	各会場参加者から出された意見	・ ・ ・ ・ ・	5 6
4	アンケート集計表	・ ・ ・ ・ ・	6 4



はじめに

コロナ禍を乗り越え生活様式が見直され、行事や会議の開催方法など、新たなスタイルでの活動が始まっている中、伊那市議会は昨年引き続き第8回となる「市民と議会との意見交換会」を開催しました。従来は8月中旬から9月下旬までの期間に実施してきましたが、今年度は議会改革に伴う政策サイクルの見直しにより日程を見直し、7月に6会場で開催しました。また、平日夜の開催のほか、子育て世帯や夜間に出かけにくい方々にも参加いただきたいとの思いから、平日の午前と土曜日の午前にも開催しました。

広報活動も関係部門への周知や協力をお願いするとともに、通り町では議員自らが道行く人に参加の呼びかけをしました。その結果、若いお母さんから元気な年配の方まで多くの市民の皆様にご参加いただき、大変感謝しております。

意見交換会のテーマについては、会場ごとに「人口減少に伴う新たな地域づくり」、「認知症に関わる支援について」、「屋内の子どもの遊び場について」、「伊那北駅周辺のまちづくりについて」、「今後の公共施設のあり方」、と現在の伊那市が抱えている重要課題をテーマとさせていただきました。当日は7～10人のグループ編成によるワークショップ形式で、テーマに沿って積極的に意見交換をしていただき、中には今まで思いも寄らない斬新的な意見もいただくことができました。

意見交換会実施後は、総務文教委員会・社会委員会・経済建設委員会の各常任委員会で意見集約し、調査・検討等を経て市長部局へ提言したもの、またその結果を踏まえ議会としての考え・対応についてこの報告書にまとめましたので、市民の皆様にご報告させていただきます。

市議会は、令和4年、5年の2年間、議会改革特別委員会のもと「議会機能の強化を図り信頼される議会」を目指して、その仕組みづくりに取り組んできました。今年はその考えを踏まえた中で議会改革を実行し、議会機能の強化を図るべく取り組みがスタートしています。また、福祉、教育、産業等の市政に関するテーマについては、主任児童委員会、不登校の支援をするNPO法人、買物弱者を支援する事業者、そして商工団体の方々と懇談会を実施しました。意見として出された重要課題については「政策提言」に結び付けていきます。今後も多くの市民の皆様と意見交換を行い「市民の身近な存在」として期待に応えられるよう取り組んで参ります。

なお、「市民と議会との意見交換会」に関するご意見、ご要望等がありましたら、議員または市議会事務局まで、お申し出くださいますようお願い致します。過去7回の報告書も市役所・各支所・市図書館等に置いてありますので、是非ご覧いただけたらと思います。

令和7年2月

伊那市議会議員 田畑正敏

1 第8回市民と議会との意見交換会の概要

(1) 趣旨

市民に開かれた議会を目指した改革の一つとして、市民により身近で、透明性のある議会運営を行うこと、また市民の声の受け皿としてご意見をいただき、意見交換をする中で情報共有をすることが重要と考え、この「市民と議会との意見交換会」を開催しています。また、今年度からは政策サイクルのための重要な機会と捉え、所管事務調査の一環として位置づけ、テーマ設定から政策提言に結び付けることを前提として開催しました。

市民の皆様の声を聴くことを主としたいという思いから、「意見交換会」の形式としています。単純な要望をお聞きするというよりも、市民の皆様との対話の中で生まれるものを大切にしたいと考えています。

伊那市議会全体として開催する会と位置づけ、資料の準備、会場設営、当日の運営などを議員が自ら行っています。

いただいた意見は、伊那市議会として調査、研究、検討に組み込み、必要に応じて市長部局への政策提言等の実施に結び付けていきます。

(2) 開催日時、会場、内容及び参加者数

参加者をグループに分け、ワークショップ形式で行いました。

○令和6年7月4日（木）午後7：00～9：00 参加者数：24名

手良公民館（てらとぴあ）

総務文教委員会担当

テーマ 人口減少に伴う新たな地域づくり

- ・地域内の移動手段
- ・自治会（区）のあり方
- ・保育園、小学校、中学校の今後について

○令和6年7月5日（金）午前10：00～12：00 参加者数：11名

伊那公民館

社会委員会担当

テーマ 認知症に関わる支援について

○令和6年7月9日（火）午後7：00～9：00 参加者数：20名

いなっせ5階

経済建設委員会担当

テーマ 伊那北駅周辺のまちづくりについて

○令和6年7月11日（木）午後7：00～9：00 参加者数：21名
長谷総合支所 総務文教委員会担当

テーマ 人口減少に伴う新たな地域づくり
・地域内の移動手段
・自治会（区）のあり方
・保育園、小学校、中学校の今後について

○令和6年7月16日（火）午後7：00～9：00 参加者数：9名

アルラ
allla（旧伊那消防署） 経済建設委員会担当

テーマ 今後の公共施設のあり方

○令和6年7月27日（土）午前10：00～12：00 参加者数：6名

福祉まちづくりセンター（山寺） 社会委員会担当

テーマ 屋内の子どもの遊び場について 《託児あり》

2 主な検討テーマについて

各会場で出された意見のうち、検討テーマとして取り上げたものは次のとおりです。

※各会場で出された意見は、56ページ以降を参照ください。

番号	検討テーマ	検討結果 ページ
1	人口減少に伴う新たな地域づくり 自治会のあり方（職員不足、空き家対策、市営住宅増設等）	9
2	公共施設のあり方 未使用施設について	11
3	公共施設のあり方 本庁舎、公民館、教育施設等の老朽化、図書館のあり方	12
4	公共施設のあり方について 災害に強いインフラづくりについて	13
5	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（防災）	15
6	人口減少に伴う新たな地域づくり 地域の移動手段（高校生の移動）	16
7	人口減少に伴う新たな地域づくり 地域の移動手段（ぐるっとタクシー他）	17
8	人口減少に伴う新たな地域づくり 地域の移動手段（おのりな号）	18
9	人口減少に伴う新たな地域づくり 自治会のあり方（役員の成り手不足）	19
10	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（空き家、住宅施策について）	21
11	伊那北駅周辺のまちづくり 情報について	23
12	公共施設のあり方について 駅前トイレについて	24
13	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（高齢者補助の充実）	25

1 4	公共施設のあり方について 福祉分野の施設と人材不足、公共事業は高齢化に向けた優先を	2 6
1 5	認知症に関わる支援について 認知症になる前の事前準備	2 7
1 6	認知症に関わる支援について (1) 認知症サポーターの活用 (2) 認知症に対する支援強化 (3) 認知症家族会の設置	2 8
1 7	認知症に関わる支援について 認知症予防で日常的に集える場所の提供	3 0
1 8	認知症に関わる支援について 認知症での課題：独居増、家族の不安、施設の不足	3 1
1 9	認知症に関わる支援について 認知症対策として有線放送やコミュニティFMの活用	3 2
2 0	認知症に関わる支援について (1) 認知症になった時の必要対策事項 (2) 地域が支える認知症	3 3
2 1	認知症に関わる支援について 認知症に関しての情報不足	3 5
2 2	公共施設のあり方について 高遠長谷地区の子どもの遊び場	3 7
2 3	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（農地や有害鳥獣対策について）	3 8
2 4	伊那北駅周辺のまちづくり 空き家、空き店舗の利活用	4 0
2 5	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（働き場所、働く環境など）	4 2
2 6	公共施設のあり方について 企業誘致による交通渋滞について	4 3
2 7	屋内の子どもの遊び場について みはらしの湯のスペース	4 5
2 8	屋内の子どもの遊び場について まちづくりの観点で飲食店への設置希望	4 6

2 9	公共施設のあり方について 道路整備について	4 7
3 0	屋内の子どもの遊び場について 公園関係	4 9
3 1	伊那北駅周辺のまちづくりについて 伊那北駅周辺整備	5 0
3 2	公共施設のあり方について 下水道施設について	5 2
3 3	人口減少に伴う新たな地域づくり 保育園、小学校、中学校の今後について	5 3
3 4	意見交換会参加者が少ない	5 5

No	テーマ	処理担当委員会
1	人口減少に伴う新たな地域づくり 自治会のあり方（職員不足、空き家対策、市営住宅増設等）	総務文教委員会
市民から出された意見		
・教育、保育園、介護とも市町村単位で職員数が足りない。 ・空き家対策、移住者用のおためし住宅が必要 ・空き家バンクの登録は手良で2件だけで活用されていない。もっと区長、常会長等が積極的に動く必要がある。 ・市営住宅を増やして欲しい。 ・回覧版を回すのに時間が掛かる。デジタル化できないか。（市営住宅入居者）		
過去の回答状況		
令和6年6月一般質問： 「デジタル回覧板システムを検討しているか」 検討はしていないが、デジタル化が進む中で、紙の配布以外の方法を研究することは必要。自治会運営のDX化に活用できる交付金事業の周知をさらに図っていく。 令和6年3月一般質問： 「自治会組織こそデジタル化を進めやすい。若い世帯が多い地区でデジタル化をモデル化として取り組めないか」 中央区や美原区ではHPを作成したり、LINEを使ったアンケート意見の集約、オンライン会議や施設予約など事例としてある。市としてどのようなデジタル化の推進が必要なのか、共に考えていきたい。		
委員会での解釈、検討結果		
・職員数については、継続的に検討していただきたい。 ・手良地区がモデル地域となったため、おためし住宅等の検討をお願いしたい。 ・長谷地区の市営住宅については、増設の検討をお願いしたい。 ・回覧板のデジタル化については、積極的に検討していただきたい。		
現状・市の対応（総務課・地域創造課・管理課）		
（総務課） ・職員数の確保に努めています。 ・回覧版のデジタル化の研究は必要と考えています。一方でデジタルに不得手な方などでも情報を受け取りやすいよう、アナログ的な手段も必要と考えます。 （地域創造課） ・令和6年7月1日に手良地区を「伊那市田舎暮らしモデル地域」に指定し、他のモデル地域と同様に、住宅取得補助、定住・通勤助成等の支援を行っています。 ・令和6年11月末時点では、手良地区内における空き家バンク登録物件は2件に留まり、空き家の掘り起こしが課題となっています。 ・地域活動の母体である手良地区活性化促進会議の「田舎暮らしサポート委員会」において、地区内の空き家・空き土地の状況把握・集約が行われています。 ・手良地区のおためし住宅の設置については、必要性や実現性を踏まえ、検討していく方針です。		

(管理課)

- ・長谷地区にある市営住宅は、公営住宅として「中島団地」が15棟15戸、その他住宅として、「市野瀬定住促進住宅」が1棟2戸、「非持定住促進住宅」が9棟22戸、「非持住宅」が1棟1戸があり、その他住宅は一般に公募するほかに、空きの状況を見て「移住定住準備住宅」として活用を図っています。
- ・市営住宅の整備に関しては、「市営住宅長寿命化計画」に基づいて建替や修繕を行い不用な住宅は除却を進めています。
- ・現在、長谷地区の市営住宅の入居率は96.4%ですが、高遠町地区には、その他住宅が48棟132戸あり、72.4%の入居率です。
- ・長谷地区において新たに市営住宅を建設する計画は今のところ予定がありません。

市議会としての考え・対応

- ・職員数について、必要な職員の確保が図れるよう市に働きかけていきます（特に教育、保育園、介護の分野について）。
- ・手良地区については、早急におためし住宅の確保をするよう要望していきます。
- ・長谷地区については、市営住宅の利用状況を見ながら、議会としても検討していきます。
- ・回覧板については、情報弱者が出ないようにアナログ的な手法も維持しながら、デジタル化を進めていきます。

No	テーマ	処理担当委員会
2	公共施設のあり方 未使用施設について	経済建設委員会
市民から出された意見		
活用していない施設がある。使っていないと劣化が早い。市で運営しなくとも民間に払い下げたり、業務委託することはできないか。		
委員会での解釈、検討結果		
施設活用のため、伊那市がどのように対応しているか調査し、委員会としての対応を検討していく必要があります。（羽広荘、入野谷、伊那市観光温泉施設、inadani sees、横山バイクパーク、サン・ライフ跡など）		
現状・市の対応（ 観光課・南アルプス課・生活環境課・50年の森林推進課 ）		
【羽広荘】（観光課） 羽広荘は宿泊施設としての役目を終了し、現在は普通財産として民間企業に貸し付けをしています。借主の事業が軌道に乗ってくれば、羽広農業公園一部でもあることから、みはらしファームとも連携した誘客事業に繋がるものと考えています。 【入野谷】（南アルプス課） 以前は指定管理者制度にて伊那市観光株式会社が経営を行っていましたが、施設の老朽化による修繕費の増加や営業不振により経営が困難となり、令和元年12月より経営を休止しています。 営業再開に関する検討もしましたが、設備の再点検や施設改修に多くの費用が必要なため、困難な状況であります。 入野谷の有効利用については、施設の購入を希望する企業等があり、長谷地域の活性化につながる利用であれば、売却を含めて検討します。 【はびろ温泉みはらしの湯・高遠温泉さくらの湯】（観光課） 伊那市観光株式会社へ指定管理を委託し、民間感覚で経営を行っています。温泉施設は観光施設の面もありますが、一番は市民の福利厚生施設として維持管理していく必要があると考えますので、引続き市としても注視していきたいと考えています。 【横山バイクパーク】（生活環境課） 鳩吹クリーンセンターの後利用については、横山バイクパークの運営状況を見ながら地区と協議を行い検討していくことになっています。 【inadani sees】（50年の森林推進課） ・令和5年5月の正式オープン以降、運営を民間事業者へ業務委託しており、多くのイベント等に活用していただいています。（R5利用実績：貸しオフィス入居者数6団体、シェアオフィス入居者団体11団体、会議室利用件数332件） ・令和7年度以降は、運営について、民間事業者のノウハウを更に発揮できるよう指定管理者制度の導入を予定しています。		
市議会としての考え・対応		
近い将来のための最重要課題の一つとして考えています。 公共施設管理の課題も併せて、所管事務調査、行政視察等で調査・研究を進めてきており、人口減少に伴う公共施設・財産の一元管理を市長へ提言していく予定です。		

No	テーマ	処理担当委員会
3	公共施設のあり方 本庁舎、公民館、教育施設等の老朽化、図書館のあり方	総務文教委員会
市民から出された意見		
・市役所本庁の雨漏りどうにかならないか →ブルーシートがかかったまま、対策を安価なコンペをしたらどうか ・公民館（地域の集会所・会所）の早期の対策が必要 →老朽化、使用頻度の低く維持費が高い、町民の減少、解体費も高騰する中、早く対策する必要あり ・教育施設の修繕は、優先して欲しい。 →春富中のグラウンドではネットが破損しているため野球部が使えなく、草もはえ悪循環へ ・図書館のあり方を検討した方が良い。 →お金を取れない施設だが、人が集まる場なので商売と絡めて何かできないか（紫波町の例） （借りて読んで欲しい本があれば、その場で新しい本が買える仕組みなど） ・引っ越してきたので、何処にどんな公共施設があるか全く分からない。		
委員会での解釈、検討結果		
・公民館（地域の集会所・会所）の老朽化、維持管理等については、実態の把握をお願いしたい。 ・その他については、市民からの要望として各課につなげていく。		
現状・市の対応（総務課・地域創造課・学校教育課・生涯学習課）		
【総務課】市役所本庁の雨漏り ・市民ホールの雨漏りは、トップライトからの雨水の侵入が主な原因と考えられます。しかしながら、雨漏り箇所の特定が非常に困難であることから、シートで全体を被う対策をすることで雨漏りを防止しています。 ・対策を始めた当初は、ブルーシートを使用していましたが、現在は、透光性があり、また、一体的なシートを使用することで、快適性と機能性を保つようにしています。 ・昨年度からより高耐久かつ見栄えの良い素材で被う対策を始めていますが、費用面の問題もあり、全ての更新はできないため、毎年度計画的に進めていく予定です。 【地域創造課 地域振興係】公民館（地域の集会所・会所）の早期の対策 各地区の集会施設等は、利用目的に応じて、林業生活環境施設や介護予防施設といった、国等の補助事業により整備し、事業を管轄する担当課において管理しているため、どのような実態を把握したいのかご指示いただければ調査をいたします。 また、各地区が所有する施設に対しての調査が必要な場合には、取りまとめまでに時間をいただけますようお願いいたします。 【学校教育課】 限りある予算から安全を最優先に営繕を行っております。なお、春富中の防球ネットについては、今年度に補修を行いました。防砂ネットについては、今後の補修を検討します。 【生涯学習課】図書館のあり方 読みたい本が図書館にない場合、他館から調達するか、購入するなどご要望にお応えしています。市立図書館は商業施設等との複合施設ではないため、館内で営業行為をすることはできません。現時点では市内に複数の書店があり、本の購入に特段の不都合は生じていないと判断しています。図書館のあり方については、引き続き利用される市民の皆さんへのサービス向上とニーズに応えるよう検討してまいります。		
市議会としての考え・対応		
・公民館（地域の集会所・会所）については、現状把握をするよう要望していきます。 ・本庁舎の雨漏りは、毎年計画的に進めて行くよう求めています。 ・その他の施設については、市民の皆さんの意見を所管課につなげていくとともに、市の情報や施設の情報を分かりやすく広報するよう求めています。		

No	テーマ	処理担当委員会
4	公共施設のあり方について 災害に強いインフラづくりについて	経済建設委員会
市民から出された意見		
・災害時に孤立しないように橋、道路などの再点検が必要ではないか。 ・災害時に橋が落ちてしまったら孤立してしまう。		
過去の回答状況		
令和5年12月一般質問： 「国土強靱化地域計画に伴う防災・減災事業の現状と取組」 伊那市では平成29年3月に第1期伊那市国土強靱化地域計画、平成31年3月に第2期計画を策定し、取り組むべきソフト面とハード面を記載している。令和6年をはじめとする第3期計画の策定を進めている。 令和5年度においては土砂対策防止事業、市営住宅建て替え事業、舗装改良、橋梁の維持管理、交通安全対策、下水道の長寿命化を進めている。 引き続き、道路整備、土砂災害防止事業をはじめとして交付金・補助金を活用して継続的な安全確保の対策を進める 令和5年12月一般質問： 橋梁については5年に1度の法定点検が義務付けられ、伊那市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、これらのすべてを点検し、その結果の中でとくに主要部分に問題のある橋から優先的に補修工事を行っている。 ※ドローンによる橋梁点検の実証実験を令和5年度実施		
現状・市の対応（危機管理課）		
・本市は、大規模災害時において、地形・地理的な要因により、部分的ではなく、市全体が孤立する可能性があるため、個人・地域においては、孤立（物流ストップや外部支援の遅れ等）前提で備える必要があります。 ・第3期伊那市国土強靱化地域計画において、災害リスクを整理すると共に、「自助の強化」と共助の仕組みづくり」を市の取組みの核とし、さらに「多様な主体との連携」を加え、強靱化のビジョンとして掲げました。これにより、孤立対応に限らず、地域防災の更なる意識化と具体的な取組みの推進を図ることとしました。 ・過去の災害の事例や令和6年度中央防災会議の提言からも、孤立地域・孤立集落の対応の必要性が指摘されていますが、当該地域においては以下の対応を進めることで、孤立の際も一定期間乗り切る体制を作ります。 ①自助 各戸における確実な備蓄、近所との相互支援（声かけ、避難誘導等） ②共助 防災資機材の計画的な整備（市等補助金活用）、災害対策本部（地域拠点）運営、安否確認体制づくり、避難場所運営、食の確保対策（パッキング等） ③公助 分散備蓄、資機材整備補助、自主防災対策の支援、スマートシティの取組みの災害時活用の検討		

・公助として孤立時の対応

安否確認（災害バイク隊等）、医療・介護・福祉と連携した要配慮者支援（孤立集落の訪問、ケア対応）、道路啓開他インフラ確保・復旧対応、自衛隊・消防・警察等と連携した避難・救助対応、通信手段整備（無線、衛星電話等の確保、SNSの活用）、避難所確保、食料物資の手配（国県のプッシュ型支援、災害時応援協定等）

- ・孤立集落においては、行政等の支援が十分できないため、一定期間の避難生活（在宅避難）を、自助・共助で対応する必要があることを、市でもしっかりお伝えしていますが、その際、孤立対応の具体的な目安（3日間や1週間等）を示し、必要な備蓄品の量の把握や自主防災の体制づくりが検討しやすい支援も必要と考えています。

市議会としての考え・対応

- ・伊那市橋梁長寿命化修繕計画、伊那市国土強靱化地域計画が、適切に行われているか随時確認していきます。
- ・市民の皆さんが安心できるよう、橋梁点検の結果、修繕計画を公表していくよう市に求めています。
- ・災害時への対応を確認していくとともに市民の皆さんとも情報を共有できるよう市と協議していきたい。
- ・災害時などの非常時に孤立した場合の対策が必要である。孤立した場合の対応などを確立していくことが大切である。

No	テーマ	処理担当委員会
5	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（防災）	総務文教委員会
市民から出された意見		
・災害時、もしもの助け合いが必要。昼は高齢者が多く、一人暮らし。未婚の方も多い。 ・防災訓練の連携必要。南箕輪は連携が取れている。		
過去の回答状況		
令和5年3月一般質問： 「災害時住民支え合いマップ作成の取組」 災害時住民支え合いマップは災害時に支援が必要な人に対して、いつだれがどのように支援するかを地区住民同士の情報共有、話し合いをしながら作成することが重要で、伊那市と社協が協力して作成支援をしている。未作成の地区については、これまでも社協の地域福祉コーディネーターが作成の支援を行ってきているが、積極的に関与していきたい。 令和6年3月一般質問： 災害時の避難は難を逃れるものであるもので、個人や家庭が安心できる場所に移動することが目的。防災おでかけ講座において自助の行動をとるようお願いしている。地域タイムラインの作成や、総合防災訓練では応援協定を締結する企業団体に参加を求めて、車避難の訓練なども実施している。		
現状・市の対応（危機管理課）		
・加速する地域関係の希薄化、高齢化、若者層の減少、生活スタイルの多様化等は、地域防災強化推進には大変厳しい環境であり、全国的にも地域における支援体制づくりが困難な状況となっています。 ・伊那市においては、市民の皆様の意識が高いため、積極的な共助の取組みが展開できていると考えています。 ・しかしながら、市内約100の区（180の自主防災組織）においては、地形や地域特性、人口等が全て異なり、それぞれの地区に合わせた取組み支援が必要であるため、引き続き、「防災おでかけ講座」、「伊那市地域防災コーディネーター養成」等人材育成を継続していくこととしています。 ・また、共助の衰退を念頭に、次の取組みとして、地域資源（企業・団体・学校・福祉事業所等）との連携を進めています。ここに暮らす全ての方々と地域一体となった防災の意識化、支援体制の確保を積極的に図っていきます。 ・これまで、「災害用の機材」「災害用の組織」「災害用のマニュアル」等、平時と災害時を完全に分けた取組みが行われてきましたが、平時の延長に災害対応があることを再認識し、今後は、地域活動（公民館・育成会・学校活動・地域ケア会議等）の場において平時から防災・減災を組込み、負担の削減を図りながら、防災からの地域づくりを進めていきます。		
市議会としての考え・対応		
地域防災の充実の更なる拡充を促していきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
6	人口減少に伴う新たな地域づくり 地域の移動手段（高校生の移動）	総務文教委員会
市民から出された意見		
・ 高校生の送迎が大変。何とかならないか。（笠原から北殿まで何回も往復するなど。） ・ 高校生の送り迎えが大変。送迎をぐるっとタクシー利用はできないか。スクールバスや、保育園バス、今あるバスを何とかならないか。 ・ 自分は高校生の送迎ボランティアをしている。行政も限られている。地域住民が主体的にボランティアなどできるようになると良いのでは。 ・ 高校生の送迎を家族がしなければならない。特にテスト期間中（半日）の帰りが無い。		
過去の回答状況		
令和5年6月一般質問： 「おのりな号を高校生の送迎に利用できないか」 運転ボランティア高齢化、今の利用者の通院の時間帯とも重なることが予想。地区社協で行うのは難しい。 令和4年12月一般質問： 「高校生の送迎負担軽減」 ぐるっとタクシーデジタルタクシーは高齢者、障害者、運転免許証の返納者の日常の移動を支えるのが目的。		
委員会での解釈、検討結果		
・ 高校側でバスを所持するなどの対応はできないか。 ・ 循環バスの経路、時間等に、高校生の通学時間を合わせられないか。 ・ ぐるっとタクシーについては、利便性など更なる研究をして欲しい。		
現状・市の対応（企画政策課）		
・ 高遠高校のように高校側でスクールバスを運行いただき、地域公共交通の空白地域や時間を補完いただけると有り難いです。 ・ 現在、市が高遠町地区、長谷地区において運行している藤沢線・長谷循環バスは、通学等の需要に合わせて朝と夕方に運行し、昼間は運行していません。路線バスの運行を維持するには、一定の利用者が必要ですので、市としては、引き続き運行時間の周知に努めて参りますが、ご理解をお願いします。 なお、高遠町地区、長谷地区から高遠高等学校以外の高校に通う高校生の皆さんには、通学費の一部を補助する制度がありますのでご活用ください。 ・ ぐるっとタクシーの運行は、タクシー事業者の本業である一般タクシーの営業に大きく影響します。タクシー事業者の本業が成り立たなくなってしまうとは、事業を継続することはできませんので、運行やサービスの内容については、民業を圧迫しないことが必要になります。現時点では、直ちに利用対象者を拡大することは難しいですが、事業者と十分に調整し、利便性の向上に努めます。		
市議会としての考え・対応		
様々な意見を聴きながら、要望の実現に向け、公共交通のあり方について更なる研究をしていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
7	人口減少に伴う新たな地域づくり 地域の移動手段（ぐるっとタクシー他）	総務文教委員会
市民から出された意見		
・ぐるっとタクシーの時間延長をして欲しい。 ・ぐるっとタクシーの周知が足りていない。 ・ぐるっとタクシーは時間制限、エリア制限で使いきれていない。予約しても待ち時間が長い。 ・移動、病院通い、待ち時間が長い。 ・ぐるっとタクシーが主だが、時間帯を使いやすいようにして欲しい。 ・ぐるっとタクシーは、運行時間終了が15時では医者に行き帰りの時間に間に合わない。特に15時過ぎの運行時間の延長をして欲しい。 ・ぐるっとタクシーが9時～15時では使えない。エリア外への移動ができるようにして欲しい。ぐるっとタクシー運転手からはもっと利用して欲しいという意見も出ている。 ・一人住まいの人の移動手段・買い物としては、予約等インターネットを使えないと利用できないので使いづらい。高齢者世帯には現実的に不可能。コロナの予約もそうであった。 ・ゆうあいマーケットがどうしたら浸透していくか。広報は。 ・とくし丸は大変助かっている。巡回回数を増やすことはできないか。 ・おのりな号の利用拡大に向けた体制作りと取組みが必要。		
過去の回答状況		
令和5年6月一般質問： 「運行エリア見直しと時間拡充について」 ぐるっとタクシー、デジタルタクシー運行业者と再三協議を重ねて今の形。仕組み自体が破綻しないようにしたいので理解していただきたい。 高度化にも取り組み、利便性の向上につながる努力はしていく（→地区変更などあった待ち時間など短縮のため）		
委員会での解釈、検討結果		
・とくし丸については、当委員会において事業者の声を聴いてみる。 ・ゆうあいマーケットについては、広報を拡大して欲しい。		
現状・市の対応（企画政策課）		
今年度、企画政策課においては、ゆうあいマーケットの利用拡大に向け、各地域で開催されている脳いきいき教室に出向き高齢者の方へ説明を行ったり、民生児童委員協議会に出向き民生児童委員さんに説明を行い、需要のありそうな方の掘り起こしを行っています。また、7月31日にはセントラルパークで、出品事業者がリアルに出店するイベントを開催するなど事業の周知に努めました。引き続き、事業の浸透に効果的な広報を行っていきます。		
市議会としての考え・対応		
買い物弱者への対策や移動手段の改善について、更に研究を進めていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
8	人口減少に伴う新たな地域づくり 地域の移動手段（おのりな号）	社会委員会
市民から出された意見		
おのりな号の活用方法を検討する必要がある。住民に認知されていない。		
過去の回答状況		
令和5年6月一般質問： 伊那市のボランティア移送は地区の社会福祉協議会が行っている。車両の維持管理に関わる費用は市が負担をしている。利用者登録では年間1,000円の保険料を負担する。利用目的、利用対象者、運行日は、地区社協ごとに規定している。主な利用対象者は、日中独居となる高齢者、高齢者のみ世帯などで利用目的には通院の送迎。買い物支援の実施は、地区社協の判断。また、送迎エリアは1回の送迎で午前午後の送迎可能時間を占める場合がある。運転ボランティアの高齢化、応募がないということが課題である。高校生送迎は難しい。 令和4年6月一般質問： 運転ボランティア不足の中、市民全体に大きく広報することは、個々の地区の事情があり一様にはできない。必要としている人が利用に結びつくことができるように周知を行いたい。		
委員会での解釈、検討結果		
※おのりな号の利用状況（手良R4：36回、R5：44回、R6：8月時点15回） 手良は送りのみのサービスのため利用が少ない傾向にある。 ・利用者は使い方がわからない方も多い。 ・活用について再考すべき時期に来ているのではないかと。制約がある事業ではあるが、プラス面、マイナス面を洗い出し、改善点を検討し、有効活用方法について検討して欲しい。		
現状・市の対応（福祉相談課）		
・おのりな号は地域の顔が見える関係の中での「お互いさま」の助け合い活動です。 ・各地区年度当初に地区内回覧等で運転ボランティア募集や、活動内容の周知を行っていると同っています。 ・運用方法については地域の実情に応じて地区社協内で検討を行っているところもあり、今後も利用実態等を踏まえて課題解決に向けた研究を進めてまいります。		
市議会としての考え・対応		
おのりな号については、「伊那市外出支援に関するサービス・活動」一覧表等での積極的な周知を行うことと、現状把握と分析を行い実情に合わせた改善を行うことを、市へ働きかけ、サービス向上が図られるようにしていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
9	人口減少に伴う新たな地域づくり 自治会のあり方（役員の成り手不足）	総務文教委員会
市民から出された意見		
・役員の成り手不足。 ・皆勤めているが、単純に役員を回す。 ・役職員の数が多い。 ・区民の減少に伴い役員の受け手がない。 ・高齢者が多く、若手は仕事関係などで区の行事に参加しにくく、区の役員のなり手がない。 ・役員が多い。役員を簡素化にした方がいい。 ・区の役員が多すぎる。 ・一人が多数の役員を持たないと回らない。 ・区のなり手不足から区の簡素化が必要である。地域に合った組織づくりが必要だ。区が成り立たなくなってくると、場合によっては区の役員なしで取り組むしかない。 ・常会長、区役員が何もかもやらないと回らない。 ・区費を減額しないと新しい人が区に加入しない。 下手良区の区費 年額3万円、八ツ手区の区費 年額7万円 ・常会には入っているが区に入らない人がいる。 ・区に入っているメリットがない。 ・中尾、杉島、市野瀬（伊那里地区）統合の話は10年前にあった。山と川で遮られているためか。役員は幾つも重なって多い。今後できなくなってしまう。区の統合をぼつぼつ考えたらいい。 ・移住者や、Iターンで帰ってきてても役職の多さ、濃密な人間関係もあり、自由度がなくなってしまう。 ・移住定住の要因。		
過去の回答状況		
令和6年9月一般質問： 「自治会の見直し」 自治会は地域性や運営方法も様々。組織の改革を行政主導で行うのは難しいが、好事例などを共有し、発信していく。 令和6年3月一般質問： 「移住者目線の自治会組織」 歴史的背景や成り立ち、行事が違うので改善事例や優良事例を広く収集し、情報提供していく。区の中でしっかり見直しをして欲しい 令和5年12月一般質問： 「自治会の在り方」 アンケートを実施して、その結果を配布した。コロナ禍で自治体運営を見直すきっかけとなったところもある。今回の調査結果をもとに各自治体において現状分析、見直しを検討するよう依頼していきたい。		
委員会での解釈、検討結果		
・市の組織として検討委員会を設置し、検討したらどうか。		

現状・市の対応（ 地域創造課 ）

- ・地区役員への負担軽減の観点から、現在市から各地域へ依頼している役員の洗い出しを行っております。洗い出し結果により、委員会等の組織役員数の見直しや組織自体の統廃合や縮小ができないか検討を行っていく予定です。
- ・市の組織としては、各地区に地域協議会があり、協議会において検討されていることから、更なる検討を協議会に依頼していきますので、議員の皆様におかれましても、協議会での意見等の取りまとめにご協力をお願いいたします。
また、新たな組織を作ることで、地域への更なる負担の増加は避けなければなりません。
- ・地域における役員構成は、地域の財産の保有状況、地域住民数など様々な要因により、地域の議会や区会等で決定されておりますので、市が一方的に決めるのではなく、地域の皆様自らが、自分たちの地域ではどんな役員や役職が今後の自治会運営に必要なのかをお考えいただき、持続可能な自治会運営を目指して、ご検討いただけますと幸いです。
- ・新規入区や既存入区の皆様においても、「この区はどういう区なのか」、「なぜ区費はこの金額なのか」など、自治会運営内容の詳細を承知されている方は少ないと考えられますので、親切で丁寧な説明をしていただけるよう、議員の皆様もご協力いただければ幸いです。
また、地域によっては、市で作成している「地域の教科書」を持参し、新規入区者等への説明に活用されているところがあります。「地域の教科書」のみでは、情報不足のところもありますので、分かり易い資料の提供をしていただきたいと思います。

市議会としての考え・対応

- ・各地域協議会に、役員構成、入区費などを検討してもらうよう働きかけをします。
- ・議会としても、役職数を減らしたり女性役員を増やすなど、人口減少対策特別委員会において深掘りしていきます。

現状・市の対応（地域創造課、管理課）

（地域創造課移住定住促進係）

- ・「長谷地区」を移住先として希望される移住検討者は少なくありません。
- ・移住検討者の多くは、まずは「賃貸物件」という考えをお持ちです。
- ・地域活動の母体である「溝口未来プロジェクト」を中心に、地区内の空き家の掘り起こしが進められているものの、令和6年11月末時点では、長谷地区内における空き家バンク登録物件は5件で、いずれも「売買」のため、売買を希望する所有者と賃貸を希望する利用者とのシーズとニーズのミスマッチが生じています。
- ・長谷地域協議会や区長会を通じて、空き家バンク制度を広く地域住民に周知して、空き家物件の新規登録を呼びかけています。
- ・マッチング作業をより円滑に進め、空き家の有効活用につなげていくための仕組みづくりとして、所有者・居住希望者間による契約や地区・所有者・居住希望者の三者による契約等についても検討していきます。
- ・長谷総合支所や地元自治会、溝口未来プロジェクト等の活動団体と連携した空き家の掘り起こしやマッチング等を引続き進めていきます。

（管理課）

- ・現在、市営住宅中島団地の空きは3戸となっています。
- ・この3戸は経年劣化によって高額の入居前修繕が生じるため、整備に着手できない状況でしたが、予算の目途が付いたため令和6年度中に2戸、令和7年度に1戸の修繕を実施する予定です。
- ・また、公営住宅法上の用途廃止を行っており、今後は「その他住宅」として、移住を希望される方を対象に入居募集を進めていきたいと思えます。

市議会としての考え・対応

少子化、人口減少が進む地域に移住者を増やしていく取組みを評価しています。

不動産業者または伊那市による宅地分譲の事業などを促進するための施策や土地利用計画の見直しなど検討が必要であると考えます。

中島団地については「その他住宅」として、移住を希望される方を対象に入居募集をするとのことなので、対応を進めていただくようお願いします。

No	テーマ	処理担当委員会
1 1	伊那北駅周辺のまちづくり 情報について	経済建設委員会
市民から出された意見		
・情報提供が少ない ・噂話ばかりで行政からの情報がなく不安 ・近隣住民に伊那北駅周辺整備事業について正確な情報や計画、進捗状況について明確に示して欲しい。 ・伊那北駅前の歩道橋や駐車場の問題を過去に意見交換会で出しているが、市からも市議会からも何も返答がない。		
委員会での解釈、検討結果		
具体的な内容はこれから決まっていきます。 市議会の意見交換会での検討結果については、ホームページに掲載しています。 議会のまちづくり課題検討委員会の活動はこれからになりますが、伊那市のまちづくり推進事業と連携して、丁寧な対応、情報発信を心がけて参ります。		
現状・市の対応 （ 都市整備課 ）		
伊那市新しいまちづくり推進事業官民共創の新しいまちづくり協議会を編成しました。その中で伊那北駅周辺再生ワーキンググループを設置し、伊那北駅周辺のこれからのまちづくりについて検討を始めています。今後、ワークショップ等を開催し、市民意見の反映に努めるとともに、適切な情報発信を行います。		
市議会としての考え・対応		
市議会としては、まちづくり課題検討特別委員会のメンバーを「官民共創の新しいまちづくり協議会」伊那北駅周辺再生ワーキンググループに参加させるなどして、活動を始めています。地元地区の皆さんとも同ワーキンググループを通じて懇談会を何回か持っています。 今後は新しいまちづくり「対話・つながり・実現の場」に市議会議員も参加して、市民の皆さんと対話の場が持てればと考えていますので、多くの市民の皆さんの参加を望みます。		

No	テーマ	処理担当委員会
1 2	公共施設のあり方について 駅前トイレについて	社会委員会
市民から出された意見		
・伊那市駅前トイレについて、屋上テラスは必要なのか、屋根の方がメンテナンスかからないのではないか。→将来雨漏りする可能性が高く、メンテナンスにも費用がかかるようになってしまう ・伊那市駅のトイレについて、なんでＪＲでなく伊那市がやったのか。		
委員会での解釈、検討結果		
なぜテラスとしたのか、メンテナンス費用の見込みなどについて、回答を担当課からいただけるとありがたい。		
現状・市の対応（ 生活環境課 ）		
今までの駅前トイレは男女トイレをＪＲ、障害者用トイレを市が所管していましたが、以前よりＪＲ側から駅前トイレの廃止する方針を示してきたことに伴い、伊那市の玄関口である伊那市駅からトイレが無くなるということは、市へ訪れる方、学生など多くの方が不便になると考え、ＪＲトイレも含め清掃管理を行ってきたところです。施設の老朽化に伴い、ＪＲ側トイレを解体する方針が示されたため、ＪＲと協議を行い伊那市が建設し管理する方向となったものです。 トイレにテラスを設置した経過は、単なる公衆トイレではなく、伊那市に訪れた方がふと立ち止まり、利用したくなるような公衆トイレをという理事者の強い思いを受け、二つのアルプスが望め、伊那市駅を往来する電車を、また違った角度から眺めることができるように屋上テラスを設置することにしたものです。 屋上テラスは、トイレの屋根の上に設置されたものであり、テラスの劣化が進んだとしてもトイレに雨漏りしないような構造となっています。 メンテナンスについてですが、トイレの清掃とテラスの清掃を合わせて委託しており、令和６年度で約２１０万円の委託料となっています。 今後、経年劣化などによる修繕は避けられないため、状況を確認し、予算の範囲内で随時行っていく必要はあります。		
市議会としての考え・対応		
より有効に活用していけるように、市民への丁寧な周知をお願いするとともに、観光客へのアピールとテラスの観光的な利活用を、市へ働きかけていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
13	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（高齢者補助の充実）	総務文教委員会
市民から出された意見		
子ども中心の社会になり過ぎている。高齢者に対する補助制度充実も必要である。		
委員会での解釈、検討結果		
高齢者に対する補助制度の充実を検討して欲しい。		
現状・市の対応（ 社会福祉課 ）		
・市では、高齢者を対象とした制度として、高齢者等暮らしいきいき応援券（以下、「応援券」といいます）の配布、通院等に福祉タクシーやタクシーの利用が必要な方への助成、一人暮らしや高齢者のみ世帯の方の暮らし支援として家庭内の軽作業を低額負担で頼めるおたすけ券の交付、紙おむつが必要な方へ購入助成券の交付、食事の確保が困難な方の配食サービス利用に対する助成、介護認定者の方を対象に住宅改修費の補助などを行っています。また、在宅で要介護者を介護している介護者の方に慰労金を支給したり、低所得者の方には介護保険のサービス利用の際の利用者負担額への各種助成を行っています。 ・例えば毎年、75歳以上の方に応援券を配布していますが、この事業はもともと入浴券やバス・タクシー券であったものを統合し使いやすくしたほか、使える用途も市民の皆さんの要望をお聞きしながら、外出支援や介護予防といった事業の目的の中で検討し、現在では市内入浴施設での利用、バス・タクシーの運賃、介護予防教室の利用料、市文化施設の入館料、紙おむつの購入、杖・歩行器の購入、理美容代、一部の検診受診料、灯油や自動車燃料代など様々な用途に使用できるよう拡充をしてきました。 ・他にも、福祉タクシー等の利用助成券と福祉タクシー・タクシー利用助成券を応援券に統合することで、交付を受けた方が応援券を暮らしに必要な用途に無駄なく使用できるようにしたほか、配食サービスではお弁当の選択肢を増やすなどの拡充も行っています。 ・今後も引き続き市民のみなさまの声を聞き、必要な方に必要な支援を届けることを念頭に様々な支援策を検討し実施していきます。		
市議会としての考え・対応		
高齢者に対する補助制度の周知を行うことや、制度が更に使いやすいものとなるよう働きかけていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
1 4	公共施設のあり方について 福祉分野の施設と人材不足、公共事業は高齢化に向けた優先を	社会委員会
市民から出された意見		
福祉施設は今後需要が増えて足りなくなるのが目に見えている。人材不足も深刻で早期に対策が必要。		
委員会での解釈、検討結果		
福祉分野の人材不足については、深刻な状況にあると考えます。市として対策を考えているか、またその内容についてお聞かせください。		
現状・市の対応（ 社会福祉課・福祉相談課 ）		
- 生活支援サービス調整協議会第1小委員会において訪問介護事業所、通所介護事業所へ実態についてヒアリングを行いました。職員の高齢化や賃金、事業所の体制等様々な実態がありました。単純に介護職員の養成やボランティアの方を派遣すれば解決するものではなく、働く職員のICTを活用した負担軽減や気持ちに配慮した複合的な課題解決が必要と感じています。（福祉相談課） - 市では人材確保の対策として、市内介護事業所に新たに就職した方を対象に資格取得の費用の補助を行っています。補助対象の資格・研修は「介護福祉士」、「介護初任者研修」、「介護支援専門員」で、50,000円を上限に取得等費用の2分の1を補助します。（社会福祉課）		
市議会としての考え・対応		
特別養護老人ホームへの入所が増えることで在宅の高齢者が減り、デイ利用者が減るなど、時期によって介護人材の過剰または不足となる事業があります。 福祉分野の人材確保については、現状把握と対策を市へ要請していきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
15	認知症に関わる支援について 認知症になる前の事前準備	社会委員会
市民から出された意見		
・ なってからどのように生きるかをみんな（子ども～当事者）で考えることが必要。 ・ 認知症になったときどうして欲しいか。 ・ 延命治療、治療方針、施設に入るか、認知症になる前に決める必要があること。		
委員会での解釈、検討結果		
認知症になったらどうするかと考える機会を作るために、介護保険料を払い始める40歳時に啓発資料配布する。認知症の手引きを作成中と聞いているが、自分が認知症・家族が認知症になった時のことを考える項目を入れる。「自分ノート」を活用し認知症になった場合のことを記入しておく。「学ぼう認知症」のような講座を大勢の市民が受講するようにPRする。などの啓発活動が考えられる。市の現状とこれからの方針を伺いたい。 国の認知症施策推進基本計画策定により、市も新しい認知症観で考えていくことになると思われる。市議会でも学習しながら認知症施策について考えていきたい。		
現状・市の対応（福祉相談課）		
・ 伊那市社協では市内小中高に出向いて福祉教育を実施しています。令和5年度は22校、延べ69回開催されました。内容は対象校の希望によりですが、車イスの体験や高齢者の疑似体験、認知症の講座などになります。認知症に限らず、高齢者になった時、身体が不自由になった時どんな支援があればよいのか等の学習支援をしています。 ・ 認知症の啓発は、毎月市報におしゃべりカフェ「オレンジ」に日程掲載や認知症の特集をしています。介護保険料を支払い始める40歳への啓発資料配布については、郵送料などを含め総合的に研究していきたいと思います。 ・ 「自分ノート」は、自分の意思表示が難しくなった時を想定し記入していただいています。認知症も含め様々な状態の方に周知できるように検討していきたいと思います。 ・ 「学ぼう認知症」のような認知症に関する講座や研修会は毎年実施しています。現在は1回定員50人、4回から5回を1コースとして学習会を実施しています。広報については市報や安心安全メールで広報しています。現在、1回に50人を超えるような大勢の方が集合する研修会は、感染症や施設の許容人数等の課題もあり、関係する講師や職員等との十分な協議が必要だと思います。 ・ 今後の施策については現在実施している認知症施策のほかに、国、県の計画を基本としつつ、市の実情に即した取組みとして、ご本人様・ご家族様等介護者からのご意見も踏まえ研究していきたいと思います。		
市議会としての考え・対応		
自分ノートについては、もう少し大きいサイズとし記入しやすいサイズにする、「認知症になったら」の情報、見て楽しい情報（認知症ドリル）などを盛り込む、デジタル機器の暗証番号が記入できるなど、使いやすいものとなるように市へ働きかけていきます。 さらに、自分ノートを65歳の市民に配布することで意識づけがしやすくなると思いますので、併せて検討を依頼していきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
16	認知症に関わる支援について (1) 認知症に対する支援強化 (2) 認知症サポーターの活用 (3) 認知症家族会の設置	社会委員会
市民から出された意見		
(1) 妻が認知症になった時どうしたら良いのか全く解らなかった。情報が解らない。薬等の情報、どういいうお医者が良いのか。お医者からは、「介護している貴方が一番大事です。」とも言われた。今は、駒ヶ根市の「頑張らない家族会」に参加している。伊那市は遅れている。伊那市は認知症に対する支援をもっと行うべきだ。 (2) 伊那市の認知症サポーター養成講座の開催を増やす。 認知症サポーター養成講座修了者の連絡会を設け、情報や意見を交換し、一層地域の主体者としての意識を高めていただく。 (3) 認知症の家族会欲しい。西春近はなうたで始まったが1事業所で参加者、その利用者が多い。伊那市で認知症の方の数は予想を上回る。人数が多いので伊那市でやっていかないと手に負えない。		
委員会での解釈、検討結果		
(1) 社会福祉協議会で行われる学習会での情報を一般にも情報提供していただけるとありがたい。認知症に関する情報提供についての市の現状をお聞かせください。 (2) 認知症サポーター講座の修了者は大勢いると思われるが、このサポーターを組織化し、さらにボランティア活動が可能な人はステップアップ講座を受講するなどして、活躍してもらうことはできないか。例えばサポーター連絡会の拠点をオレンジカフェにし、活動の場の一つとし、現在の5か所を増やしていく。オレンジカフェに、地元の自主事業としての負担を押し付けることが懸念されるが、オレンジカフェがまちの縁側の事業のような形をとるなど、地域ごとに可能な形で広がることはできないだろうか。認知症サポーターの現状と活躍の場の展望を伺いたい。 (3) 家族会は民間で実施する事業とのことだが、認知症家族が集まれる場が増えるといいと考える。オレンジカフェとの兼ね合いも含め、市の現状と今後についてお聞きしたい。		

現状・市の対応（ 福祉相談課 ）

（１）学習会は、「学ぼう認知症」として、伊那市福祉相談課で実施しています。

質問１５の回答で、回数、広報等回答していますので、ご確認ください。

また、学習会は、認知症専門医、認知症専門看護師、精神保健福祉士、認知症デイケアスタッフの認知症初期集中支援チームに委託して開催しています。聴講と質疑応答のできる参加者へ資料の配布をしています。参加していない一般の方へは認知症について、相談窓口等を紹介しています。

- ・認知症サポーター養成講座： 民生委員会ではチラシで周知しています。学校や市民の方と多くかかわる機会のある会社や企業にはダイレクトメールで周知しています。
- ・おでかけ講座： 希望のある地域の高齢者の団体に出向いて講座を開催しています。
- ・ケーブルテレビ： 今年度はい〜なチャンネルで１回放送しました。
- ・市報： 毎月おしゃべりカフェ「オレンジ」の日程を掲載し、今年度は特集記事も掲載しました。
- ・有線放送： 今年度は認知症に関して２回放送しました。
- ・認知症月間： 例年９月の認知症月間では伊那図書館に、認知症に関するチラシや市の取り組みについて展示しています。

（２）認知症サポーターは、平成１９年度から養成をはじめ、令和５年度末で７,２６７人います。認知症の病気を理解し、地域で困っている認知症の方やその家族の方にあわせた支援ができる市民の方を増やすことを目的に実施しており、組織化については、規模、範囲、活動内容等、今後研究が必要だと思えます。

- ・おしゃべりカフェ「オレンジ」が、地区・地域社協が実施する「まちの縁側」のような形態かとれるかどうかは、関係者との協議・研究が必要だと思えます。
- ・認知症サポーターの皆さんのうち、現在、ボランティアとして地域で活動していただいているのが、おしゃべりカフェ「オレンジ」のスタッフの皆さんです。この皆さんは現在、「チームオレンジ」という組織を立ち上げ、ご本人様・ご家族様等介護者への具体的な支援に何ができるか、ということをも市と一緒に考えていただいています。

（３）現在市内５ヶ所で、おしゃべりカフェ「オレンジ」が開催されていますが、令和５年度は５８回開催、１回平均５人程度の方が参加していただいています。

- ・西春近の事業所では自主的に家族会を始めています。事業所の責任者と連携しながら、市の職員も参加させていただき情報把握に努めています。
- ・伊那市としてはおしゃべりカフェ「オレンジ」は認知症の当事者も家族も集まれる場として開催しています。主催は各会場のボランティアスタッフですが、市の職員も毎回参加させていただいています。市としては、ご本人、ご家族の思いを聞きながら、各会場のスタッフと協議しながら、運営に協力していきたいと思えます。

市議会としての考え・対応

取り組んでいる事業について、市民への周知に力を入れるべきと考えます。各支所に包括支援センター職員がおり、相談を受けることができることも含めて周知をお願いしていきます。

認知症カフェ設立補助金などの財源を活用し、市民の皆さんの近くで認知症カフェ運営がされるよう研究検討を依頼します。

認知症の家族の意見を聴く機会を多く作ることや、家族会の立ち上げについてもオレンジカフェ同様に支援し関わりを持っていくことに、現状把握をしたうえで進めていくように働きかけます。

また市議会でも認知症カフェ運営者等との意見交換会等の実施も考えていきます。

No	テーマ	処理担当委員会
17	認知症に関わる支援について 認知症予防で日常的に集える場所の提供	社会委員会
市民から出された意見		
お年寄りが、日常的に、気軽に集える場所が欲しい。例えば公民館の開放等。		
委員会での解釈、検討結果		
認知症予防の観点から、日常的な取り組みがあるといいと考えるが、市の現状と声からの取り組みについてお聞きしたい。 まちの縁側などの取り組みもあるが、さらに日常の範囲での場所があるといい。		
現状・市の対応（福祉相談課）		
・市では、MC I（軽度認知障害）の方の進行予防を目的に作業療法、音楽療法身体を行う認知症予防教室「ひまわり会」を毎週1回、2か所で開催しています。参加するには伊那市地域包括支援センター職員を通しての手続きが必要ですが、認知症予防の観点から考えると適切な教室であると思います。 ・各地域公民館のほか、地域で整備されてきた「いきいき交流施設」を日常生活の範囲で集える場所として有効活用していきたいと考えています。 ・市としては、「生活支援サポーター」「いきいきサポーター」「シルバーリハビリ体操指導士」の人材養成・育成を継続しながら、地域活動を後方から支えていきたいと思っています。		
市議会としての考え・対応		
「ひまわり会」の利用手続きや利用条件の案内周知を依頼していきます。 「脳いきいき教室」開催も地域の実情が関係すると考えますので、人材育成も含め、現状把握と地域にあったアプローチの研究検討を依頼していきます。 議会としても引き続き研究し働きかけていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
18	認知症に関わる支援について 認知症での課題： 独居増、家族の不安、施設の不足	社会委員会
市民から出された意見		
・本人の自覚は困難。周りに迷惑をかけたくないがどうすれば。 ・一人暮らしの方で認知症が進んで生活の支援を望んでいる人が多くなっている。 ・自分が認知症になってしまったら、家族はどうするのか不安。 ・認知症の進行で免許を返納したが、外出する足がなくなる。ぐるっとタクシーやデジタルタクシーは有り難い。更に充実して欲しい。 ・特別養護老人ホームの空き待ち問題は深刻。家族への負担が長期化する。 ・認知症対応型のグループホームが少ないのでは。増えれば自分でできる事が維持できるのでは。 ・家族の負担を軽くする。 ①本音で相談できる人をつくる（親戚、ケアマネージャーなど）。 ②子どもと高齢者が交流できる地域の居場所づくりとその利用		
委員会での解釈、検討結果		
特別養護老人ホームの空き待ち状況や認知症対応型グループホームの入所状況、各々のスタッフ人材の状況をお聞かせください。		
現状・市の対応（ 社会福祉課 ）		
・特別養護老人ホームの入所申込は民間の施設では直接の受付、広域法人の施設は市が受付を行っており、各々で待機者管理を行っています。 ・市が受付を行っている人数は9月優先入所検討委員会時点で一般特養178名、認知症対応23名となっています。 ・入所申込者は3ヶ月ごとに優先入所検討委員会を開催し、要介護度や家族介護の状況などから優先順位を決定し、上位の方から入所を案内しています。今年状況では、介護度が高く介護者もいない方は数ヶ月で入所が可能な状況となっており、4月より70名ほど待機者が減っています。 ・入所希望施設を特定される場合などは、希望施設が空くまで入所ができないため、時間がかかる場合があります。 ・認知症グループホームは伊那市内に8施設あり、定員は計108名で、常時満床の状態です。 ・スタッフについては、介護従事者の確保には苦慮しているとの声はお聞きしているところですが、各施設事業所の指定基準を確保し運営を続けていただいています。特にフルタイムでの勤務可能な方や夜勤の可能な方の確保が難しいと聞いています。		
市議会としての考え・対応		
認知症になる前から、認知症初期段階での不安をやわらげることができるような内容のまとめた冊子の作成を働きかけ、冊子を必要とする個人への適切な渡し方についても併せて検討を働きかけます。		

No	テーマ	処理担当委員会
19	認知症に関わる支援について 認知症対策として有線放送やコミュニティFMの活用	総務文教委員会
市民から出された意見		
有線放送（農業・議会等のイベント情報を聞き、参加したくなるような情報源として、家で引きこもる人が外出するきっかけとして）、行政でも加入を増やすことはできないか。		
委員会での解釈、検討結果		
コミュニティFMが始まる。 有線放送やコミュニティFMに高齢者向けの番組があるといい。		
現状・市の対応（秘書広報課）		
- どのような枠でどのような情報を発信することが適切であるか、放送主体である伊那市有線放送農業協同組合や伊那ケーブルテレビジョン株式会社とも協議します。 - 市報に掲載している介護・認知症カフェ「オレンジ」の開催情報等について、有線放送やコミュニティFMでの定期的な放送が可能か、放送主体と協議をします。		
市議会としての考え・対応		
関係先に、高齢者番組を入れることを検討してもらうよう進めていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
20	認知症に関わる支援について (1) 認知症になった時の必要対策事項 (2) 地域が支える認知症	社会委員会
市民から出された意見		
(1) 認知症になったとき、必要なこととして挙げた内容 ・認知症でも迎えてくれる場所や人のつながりを今から作る必要がある。 ・認知症になると、もともとの性格や人柄がでる。意地を張らずに自分を出せる場所が必要。 ・家の片づけ ・健康維持、友人との関係（だんだん減ってくる） ・仕事の愉しみ（山野草、果樹作り）を続ける ・スマホ（LINE、SNS等）、パソコンでのつながり（目に悪いが） ・認知症サポーター（専門職：医療・福祉・行政等） (2) 地域住民の理解 ・「家族が支える」から「地域が支える」に意識を変えたい。 ・施設も必要だが、地域で普通に過ごすことを目指すのは無理か。20年前は、家族や地域の方と一緒に歩く姿を見た。 ・たんぽぽグループホーム。施設へ入ることが基本。「家族が支える」ことから「地域が支える」に変えていく必要がある。オレンジカフェが少ない。オレンジカフェでは、明るく話をしている。 ・認知症になっても安心して生活できるまちづくりが必要。		
委員会での解釈、検討結果		
(1) 認知症になった時の対策についての取組みの現状を教えてください。 今後の所管事務調査として、調査研究していきたいと思います。 (2) 地域で支えていく方策について検討していただきたい。 今後の所管事務調査として、調査研究していきたいと思います。		

現状・市の対応（ 福祉相談課 ）

（１）認知症になったとき、必要なこと

- ・認知症個別相談を実施しています。
市では、主に福祉相談課、高遠町総合支所、長谷総合支所、美簗支所、東春近支所、西箕輪支所に認知症を含めた介護相談に対応しています。
- ・認知症予防教室「ひまわり会」を開催しています。
主にMC I（軽度認知障害）の方の進行予防を目的に作業療法、音楽療法などを実施しています。
- ・介護保険サービス（デイサービス等の通所介護、ヘルパー・看護師等の訪問介護、短期入所等）を紹介しています。
ご本人の生活を支える、日中活動、運動、コミュニケーションができる場所を紹介しています。
- ・おしゃべりカフェ「オレンジ」を紹介しています。
ご本人、ご家族等介護者の方が思いを語れる場として提供しています。
- ・認知症見守りネットワークの協力事業所を増加させていきます。
万が一、ご本人が行方不明になった場合に、早期発見できるよう関係機関で情報共有しておくしくみを紹介しています。
- ・認知症初期集中支援チーム事業を実施しています。
認知症の症状が出て生活等に支障が出てきて対応や支援が困難な場合に、集中的に専門職がチームで支援するしくみを利用しています。

（２）地域住民の理解

- ・伊那市では、地域の方や認知症当事者、ご家族等介護者の方も認知症を正しく理解し、お互いが自然に支援し合える地域づくりが必要だと考えています。
- ・地域で支えるためには、「認知症を正しく理解する」ことが大切なため、認知症学習会、お出かけ講座、認知症サポーター養成講座など周知をしていきます。

市議会としての考え・対応

地域で支えるしくみの充実について要請していきます。

誰でも認知症にはなるし、地域の中には誰かしらの認知症の方がいるという新しい認知症観を前提として、地域住民の相互理解がなされるよう、市議会としても研究していきます。

No	テーマ	処理担当委員会
21	認知症に関わる支援について 認知症に関しての情報不足	社会委員会
市民から出された意見		
情報不足について ・情報が入らない。施設のことが解らない。自分で探す人が多いと聞く。ケアマネ誰を選んで良いか解らない。ケアマネの仕事の内容が解らない。薬のこと。 ・子ども大人の段階で、学習の機会をとって欲しい。研修会、各精神の病院を交代して欲しい。ケアマネも交代で。 ・認知症の方が地域でどのくらいいるのかよく解らない。 ・主人と二人の生活になった時にどちらかが認知症になってしまった時は、どんな支援が受けられるのか。 ・認知症になってしまって、家に帰れなくなった時は。 ・高齢になると物忘れが多くなる。認知症の始まりか。 ・認知症にならないためには。 ・困った時に地域包括支援センターの認知度が低いので、すぐに相談できない。 ・家族が認知症になった時に、どこに相談すればよいか分からない。 ・認知症の方とどう接すれば良いかよく分からない。どのくらいの人数か、若年認知症の方の数は。情報が少ない。 ・施設の情報が得にくい。施設が地域にオープンになりきれしていない。子ども達の放課後ケアサービスに活用されているところもある。 ・認知症の情報を繰り返し伝えていく工夫が必要。 ①区の総会で15分間、担当者が話をする。 ②高齢者は有線放送をよく聞く人が一定数いるので活用する。 ③市報の内容をアプリで見やすくする。 ・認知症が疑われた時の行動を学ぶ。 ①包括支援センターや専門医にすぐ連絡。 ②家族だけで抱え込まない。 ③対応の仕方は、否定しない、本人のやりたいできる事を任せる、うまくできなくて当たり前 ・徘徊が始まったら①地域に伝える。②GPSなどの技術など活用。 ③不明者の捜索ボランティアの検討		
委員会での解釈、検討結果		
認知症に関する情報発信は、具体的な項目を示した内容で発信していただきたいと思います。現状と今後の対応についてお聞かせください。 今後の所管事務調査として、調査研究していきたいと思います。		

現状・市の対応（ 福祉相談課・危機管理課 ）

（福祉相談課）

- ・認知症の症状や予防、対応や治療、サービスについてなど、認知症を正しく理解していただくために、認知症学習会や認知症サポーター養成講座、お出かけ講座などを開催し、市報、ケーブルテレビ、有線、安心安全メールを通じて随時情報発信に取り組んでいます。
- ・より身近なところで相談ができるように、「いいな介護なんでも相談所」の桃太郎旗を設置した市内各介護施設で、認知症を含めた介護相談ができる体制を整えています。
- ・認知症に関わる各種の情報はわかりやすい内容で発信していきます。
- ・徘徊による見守りに対する支援については、位置情報システムの活用等について研究していきます。

（危機管理課）

- ・徘徊に限定した体制での搜索等はありませんが、警察からの安心安全メール配信と市からの防災行政無線により放送を行い、状況に応じて警察・消防署と消防団との協力体制で行方不明者搜索に当たっています。

市議会としての考え・対応

ケアマネジャーの業務を一覧として周知を図るように、市へ検討を求めています。また担当者でも説明しやすくなり、マニュアルとしても利用できるような冊子にまとめ、これを活用した情報提供の方法の研究を依頼していきます。

No	テーマ	処理担当委員会
22	公共施設のあり方について 高遠長谷地区の子どもの遊び場	社会委員会
市民から出された意見		
長谷地区に人（子ども）が集まる施設（公園）を作ってはどうか。		
委員会での解釈、検討結果		
高遠長谷地区の遊び場としては、ほりでいドームに遊具のある公園を設置する計画があると聞いています。その状況についてお聞かせください。また、道の駅南アルプスむら長谷向かい側にある南アルプス公園を周知すること、高遠長谷地区の屋内の遊び場（小学生以下対象）として使用可能な施設（気の里ヘルスセンターなど）を研究することについて、市のお考えをお聞かせください。		
現状・市の対応（ 都市整備課・長谷農林建設課・子育て支援課 ）		
（都市整備課） ほりでいパークに整備予定の遊具については、現在事業を進めており、今年度中に共用開始する予定です。（令和7年1月23日完成） （長谷農林建設課） ・南アルプス公園には遊具や東屋が設置され、平日も休日も多くの皆様に利用していただいています。更なる周知に努めて行きたいと思います。 （子育て支援課） ・子どもの遊び場に関する情報は、主に伊那市子育てガイドブックにて紹介等していますが、内容の更新や充実に努めて行きたいと思います。 ・屋内の子どもの遊び場の設置検討については、一定の規模を持つ施設の設置または利用が必要となるため、ご提案にあるような公共施設を中心に適当な施設を検討していきたいと考えています。		
市議会としての考え・対応		
市へは、現在ある公園をしっかりと周知していただくようお願いしていきます。 屋内の子どもの遊び場については、検討を進めていただくようお願いしていきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
23	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（農地や有害鳥獣対策について）	経済建設委員会
市民から出された意見		
放置農地、鳥獣対策が必要。耕作している人の高齢化。営農組合だけでは対応しきれない。		
現状・市の対応（農政課・農業委員会事務局・50年の森林推進課）		
・放置農地について（農業委員会事務局・農政課） 放置農地の対策については、伐根や圃場整備等に活用できる市の補助「耕作放棄地再生事業」があり、補助率は経費の1/2、上限20万円です。 農業委員会では、法令により、毎年農地パトロール及び利用意向調査を実施し、遊休農地の抑制及び解消に取り組んでいます。しかし、発生と解消を繰り返し、営農ができず離農する方、相続等により市外在住の方の取得が増加し大きな改善とはなっていません。今後も離農者を救済する個別対応をとり、中古住宅付き農地の拡充、これから始まる地域計画（目標地図）での地域の支え合い体制を構築し取り組んでいきます。 ・鳥獣対策について（農政課・50年の森林推進課） 鳥獣対策について、被害を防ぐための対策としては、国・県の補助、市の補助金による防護柵などの設置に対する補助を行っています。毎年各地区農業振興センターを通じ、設置要望に関する調査を行っています。国補助は自力施工の場合は資材費の100%を補助対象としています。市単独補助の場合は、2戸以上の農家による設置の場合、補助率は資材費の1/2で、上限75万円になります。 また、市内猟友会と協力し有害鳥獣の捕獲を実施しています。捕獲支援として、従事者への捕獲奨励金の交付や、集落等が防除資材（くくりわな等）を購入する費用に対する補助、鳥獣被害対策実施隊員の狩猟免許の取得・更新に対する補助を行っています。 奨励金額及び補助率 ・奨励金（1頭当たり）：ニホンジカ7,500円、ニホンザル10,000円、イノシシ6,000円 他 ・防除資材購入費用補助：資材費の1/2（上限75万円） ・狩猟免許取得・更新補助：新規取得経費の3/4、免許更新経費の1/2 ・耕作者の高齢化等担い手不足について（農政課） 耕作者の高齢化、担い手不足に対応するため、10年後、地域の農業をどんな農業にしていきたいか、大切な農地をどう守り、次の世代につないでいくかを地域で話し合い、「地域計画」としてとりまとめており、この計画は令和7年3月に策定される予定です。 新規就農を希望する方に対して、定期的にJAや県と合同で就農相談会を開催し、希望がある場合は農業委員会に情報共有し、借り入れ可能な農地などの案内を行っています。 耕作者の負担軽減のため、中山間地域での利用を想定した自動給水栓やラジコン草刈機などの普及に向けた実証を行っています。		

市議会としての考え・対応

放置農地や鳥獣被害の問題は、農業従事者の高齢化や人口減少と密接に関連しており、地域の持続可能な農業や環境保全において深刻な課題であると考えています。

議会の委員会では、農業団体や農業従事者との意見交換を行い、現状把握に努めていますが、行政の施策や事業、取組について、予算審議などを通じて農地が守られていく対応を積極的に進めてまいります。

耕作放棄地や過疎地などの農地の状況を注視しています。法改正などによる地域の取組が有効に働いているのか、足りないところはないか、必要に応じて議会で発言や担当部署に働きかけ、農地が守られていくように積極的に働きかけていきます。

No	テーマ	処理担当委員会																									
24	伊那北駅周辺のまちづくり 空き家、空き店舗の利活用	経済建設委員会																									
市民から出された意見																											
・大学生や高校生に運営できるように空き店舗を活用して欲しい。 ・駅近辺に若者が集える場所を作る。空き店舗などを利用して市で作って欲しい。 ・1時間に1本しか電車がいないので冬の寒さ、夏の暑さを避けて時間を潰せる場所を空き家などを利用して行政としても考えてもらいたい。。																											
過去の回答状況																											
令和5年6月一般質問：伊那市駅と伊那北駅を結ぶ中心市街地についてもウォーカブルなまちとして居心地がよくなるようWifi環境とかネット環境をしっかりと作りながら、今の車社会ではなく、地方都市公共交通、あるいは歩くという手段についてもそうしたことも視野に入れたまちづくりを考えていかなければならない ※創業にあたっての「中心市街地空き店舗等活用事業補助金」 「空き店舗バンク」については登録範囲を限定せず市内全域の物件を閲覧できる																											
委員会での解釈、検討結果																											
伊那北駅周辺での若者が集える場所として、自習室、フリースペースなど用途に合わせた居場所の確保に向けた検討をまちづくり課題検討特別委員会と連携しながら進めていきたい。また、管理運営についても、学生の自主運営できる環境も含め検討していきたい。																											
現状・市の対応（商工振興課）																											
・2401商工総務 空き店舗バンク市内全域物件の登録になり、現状を教えてください ・中心市街地の空き店舗の利活用の状況について、現状を教えてください ・2412商業振興 今年度実施、または計画されている賑わい創出事業補助金の状況について教えてください ・商工会議所等の他団体との取り組み状況を教えてください。																											
（回答） ・空き店舗バンク新規登録物件数： R5（5件）、R6（3件）うち成約件数R5（1件）、R6（1件） 「中心市街地空き店舗等活用事業補助金」実績 <table><tr><th>年度</th><th>整備事業交付数</th><th>小売業</th><th>飲食業</th><th>その他</th></tr><tr><td>R3</td><td>3</td><td></td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>R4</td><td>4</td><td></td><td>3</td><td>1</td></tr><tr><td>R5</td><td>2</td><td></td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>R6</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td></tr></table>			年度	整備事業交付数	小売業	飲食業	その他	R3	3		2	1	R4	4		3	1	R5	2		2		R6	1	1		
年度	整備事業交付数	小売業	飲食業	その他																							
R3	3		2	1																							
R4	4		3	1																							
R5	2		2																								
R6	1	1																									

・「商店街賑わい創出事業」申請状況

団体名	事業名	実施期間
霜町実業団	霜町「ゆめハロウィン」	9/1～12/15
たかとおカード加盟店会	システム切替キャンペーン、年末大売出し	11/14～12/27
伊那市コミュニティカード協同組合	「い～なちゃんカード」イベントセール	12/13～1/31

中心市街地の開催イベント共催

事業名	実施時期
伊那まちバラジャズストリート2024	R 6 年 6 月
伊那まちファミリーフェスタ2024	R 6 年 7 月
上伊那民主商工会 商工フェア	R 6 年 8 月
第27回信州伊那街道呑みあるき	R 6 年 9 月
伊那オクトーバーフェスト	R 6 年 1 0 月
いなまちクリスマス2024	R 6 年 1 2 月

- ・その他
 - ・歩行者天国関係者調整会議の開催
- ・伊那商工会議所実施の商店街賑わい事業への支援
 - ・「17とりどりまつり」共催（主管：地域創造課）

市議会としての考え・対応

本来は通勤・通学の拠点となるはずの駅前の空き店舗対策は、全国的にも顕著にみられる事案であるため、いち早く対策を施している自治体の視察を行い、良いものは積極的に取り入れ、伊那市に提案していこうと考えています。

大学生や高校生など若者の皆さんには、新しいまちづくり「対話・つながり・実現の場」に参加して、さまざまな意見を聞かせていただきたいと思います。

No	テーマ	処理担当委員会
25	人口減少に伴う新たな地域づくり その他（働き場所、働く環境など）	経済建設委員会
市民から出された意見		
・東京の大学を出て、戻ってもできる仕事があるとよい。 ・若い女性が戻ってきてても働く場所がない。魅力的な仕事が必要。 ・若い女性が住みやすい環境を。 ・若い女性が定着することができる仕事、暮らしやすい環境が必要。 ・東京に行っていたほうが給料はよいが、今はどこにいても働くことができる働き方がある。		
現状・市の対応（ 商工振興課 ）		
広域連合の上伊那の取組や郷土愛プロジェクト、伊那市でのキャリアフェスの取組、サテライトオフィスの取り組みなど様々な施策を行っているかと思います。 企業訪問などを通じて、新規採用や中途採用での若者の就職や採用について企業からご意見をいただくことなどはあります。また、上記以外の新たな取り組みなどがあれば教えてください。 工業振興推進員が、日々企業訪問によりご意見を伺っているほか、毎年、市内製造業にアンケート調査を実施しています。令和6年度は、8月に市内製造業204社へアンケートを送付し、うち102社（回答率50%）より回答がありました。今年度の正社員採用状況は大学・大学院が30人、短大・高専・専門学校13人、高校47人、中途採用61人、合計151人であり、地域内企業も正規社員や中途採用には意欲的な一方、当初採用を予定していた人数（大学・大学院47人、短大・高専・専門学校14人、高校59人、中途採用62人）と比べ、大学・大学院の採用が思いどおりになっていない状況が伺えます。 また、来年度正社員採用の予定人数は大学・大学院58人、短大・高専・専門学校15人、高校66人、中途採用38人、合計177人であり、市内製造業の採用意欲は引き続き高いと予想されます。 地域内企業の採用意欲に対して、9月30日には若者の就職や応募に幅広いチャンネルを持つ、株式会社リクルートと「採用力強化に係わる連携協定」を結び、採用担当者向けの採用力向上セミナーや個別指導等の支援を行っています。 また、今後、労働力人口の減少が進む中、女性を含めた多様な産業人材を確保していくことは喫緊の課題であり、関係機関と連携した各種セミナーの開催によるデジタル人材育成や、受入先となる情報通信業などIT企業の誘致等を積極的に進めます。		
市議会としての考え・対応		
若者、女性の流出を食い止め、そして呼び戻すためには、ご意見のとおり、女性や若者にとって働きたいと思える場所、暮らしやすい環境を整えていくことが必要だと考えます。 意見交換会で出された意見も含め経済建設委員会で、「働き場所として若者、女性に選ばれる伊那市」をテーマに所管事務調査を行い政策提言に結びつけていきます。 経済建設委員会でも人口減少対策特別委員会でもこの課題について取り組んでいます。議員も講演会に参加し調査研究を深めるなどしています。また、㈱リクルートとの連携協定により地域の人材確保が強化されるよう期待しています。		

No	テーマ	処理担当委員会
26	公共施設のあり方について 企業誘致による交通渋滞について	経済建設委員会
市民から出された意見		
企業誘致は近隣市町村からの通勤も多く、道路交通網整備や公共交通と足並みがそろっていないため、渋滞などの問題が発生している。		
過去の回答状況		
令和6年6月一般質問： 「道路網の整備と渋滞対策等について」 工業団地の拡張により、新たな企業が立地すれば通勤車や社用車、大型車両等の交通量が増加すると考えている。東原工業団地では第2期エリアと並行して、交差点改良も実施できるよう進めていきたい。 工業団地整備後の通勤交通量の増加に対しては、県道などの幹線道路の利用や、時差出勤による交通分散、安全対策を徹底するように状況に応じて工業団地の協議会などを通じて、各事業者へ依頼していきたい。 令和3年12月一般質問： 「国道153号バイパス」 この伊那バイパスとか環状北線が整備できれば、渋滞緩和また大規模災害時の輸送や緊急輸送路に加えて、これまで伊那市が抱えていた課題の様々な点が一気に解消できると考えている。 リニア中央新幹線、三遠南信自動車道がもたらす経済波及効果によって、観光や企業誘致、雇用創出に期待が持て、今まで以上に伊那市が発展すると見ている。 令和3年6月一般質問： 「伊那インター工業団地発展から生じる交通問題について」 これまで通勤時の交通規制の遵守、幹線道路の通行、生活道路への進入禁止について、従業員への注意喚起は個々の企業の対応に委ねられていた。より強固なものとするべく連絡会での取決め事項の伝達協議を行う。今後も連絡会と地元区との合同会議などの機会を捉えて、意識の共有を進めながら、交通安全の注意喚起と通勤時間の変更の検討可否を含めて、解決に努める。		
現状・市の対応（産業立地推進課）		
企業誘致する際に、通勤時の交通規則の遵守、幹線道路を通行することや、生活道路への進入禁止など、なにか行っている取り決めなどがあれば教えてください。 明確な取り決め等はありませんが、工業団地造成に伴う企業立地の際に懸念される周辺交通量の増加について、企業訪問の際に以下の点をお願いしています。 ・通勤時の交通ルール、マナーの遵守 ・幹線道路の利用、生活道路への進入禁止 また、各企業や工業団地協議会、連絡会を通じて、時差出勤による交通分散など各事業者へ依頼しています。		

市議会としての考え・対応

企業誘致により、固定資産税、償却、市税収入、地域における雇用の創出、地域の活性化等、市に多くの恩恵をもたらしますが、開発に伴うインフラ整備は必須であると考えます。

市民生活へ悪影響がないよう議会としても注視していきたい。また、渋滞問題については、バイパス整備、主要道路整備と絡め研究を進めていきます。伊那インター工業団地に接続する道路の拡幅工事や、東原工業団地の交差点改良工事が予定されております。そのような改善については引き続き後押ししていきたいと思います。

また、一般質問などを通じて継続的に改善を求めています。

No	テーマ	処理担当委員会
27	屋内の子どもの遊び場について みはらしの湯のスペース	経済建設委員会
市民から出された意見		
・みはらしの湯、さくらの湯にゲームコーナーではなくて卓球台や滑り台などの幼児用遊具などを入れた屋内の遊び場が欲しい。 ・みはらしの湯のゲームコーナーをキッズスペースにして欲しい。		
委員会での解釈、検討結果		
市の施設が利用者のニーズをとらえているか、健全に運営されているか、常に注視していきます。 (1) 現在のみはらしの湯のゲームスペースについて利用者から何かご意見などがあれば教えてください。 (2) みはらしの湯館内について、利用者の意見などを取り入れるような機会があるのか教えてください。		
現状・市の対応（観光課）		
(1) ゲームスペースについて利用者から特段意見や要望はありません。 ゲームコーナーは家族連れを中心に多くの利用があり、多少なりとも収益に貢献しています。 キッズコーナーについては、ゲームコーナー以外の場所での設置の可能性について指定管理者の内部で検討していますが、設置場所や掛かる経費、特に安全管理の面で課題があり検討中となっています。 (2) 利用者からの意見・要望などは口頭で寄せられたり、館内に意見箱を設置して寄せていただいています。		
市議会としての考え・対応		
みはらしの湯、さくらの湯をはじめみはらしファームやさくらホテルなどの様々な市の施設は、子どもや大人、利用者にとって魅力的・有効なものでなくてはいずれ必要がなくなってしまう。また、施設のよりよい運営は、雇用創出、観光効果、経済活性化、賑わいの創出など地域振興につながっていきます。 また、お子さん連れの方も含めていろいろな人が安全で使いやすく、多くの人が利用しやすい施設になるよう引き続き要望していきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
28	屋内の子どもの遊び場について まちづくりの観点で飲食店への設置希望	社会委員会
市民から出された意見		
飲食店(個人)に、ベビーカー・オムツ替えなどの設備設置補助を。		
委員会での解釈、検討結果		
市には補助はない、赤ちゃんの駅事業にも取り組んでいないとのことだが、子育て支援の観点から推進しやすい補助を検討していただきたい。他自治体の先進事例を参考に前向きに取り組んでいただきたい。		
現状・市の対応（ 子育て支援課 ）		
子育て支援に取り組む事業者の支援については、他の自治体の取組を参考に研究したいと考えます。一方、補助等には相当の予算を要することが見込まれ、国・県の補助メニューもしくは広域的に県として実施する方法の提案等研究したいと考えます。		
市議会としての考え・対応		
市議会も先進事例などの研究を行っていきます。 子育てマップについては、市内公共施設の授乳室などの一覧を、パパマママップなど各種マップに掲載していくよう働きかけていきます。 ベビーケアルームを市内に設置するように要請していきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
29	公共施設のあり方について 道路整備について	経済建設委員会
市民から出された意見		
道路の整備について		
過去の回答状況		
令和5年12月一般質問： 「国土強靱化地域計画に伴う防災・減災事業の現状と取組」 伊那市では平成29年3月に第1期伊那市国土強靱化地域計画、平成31年3月に第2期計画を策定し、取り組むべきソフト面とハード面を記載している。令和6年をはじめとする第3期計画の策定を進めている。 令和5年度においては土砂対策防止事業、市営住宅建て替え事業、舗装改良、橋梁の維持管理、交通安全対策、下水道の長寿命化を進めている。 引き続き、道路整備、土砂災害防止事業をはじめとして交付金・補助金を活用して継続的な安全確保の対策を進める。 令和5年9月一般質問： 「市単事業における各地区の要望箇所工事をさらにすすめるための提案」 地元からの要望に対する事業を推進するため、平成27年度から土木事業と土地改良事業について予算を追加し対応している。令和5年度は土木事業に5,000万円、土地改良事業に1,200万円を追加で計上し、平成27年度からの合計は5億円を超える予算を計上して対応している。今後も地域からの要望を聞き、また老朽化等の状況を考慮しながら、予算の追加対応というものも考えていく。 令和5年9月一般質問： 「立地適正化計画の策定とインフラ整備について」 幹線道路については舗装長寿化修繕計画に基づき計画的に整備している。今年度はナイスロードなど5路線の舗装修繕工事を予定している。生活道路の整備、維持補修については、地区からの要望を受け優先順位をつけて予算の範囲内で実施をしている。 また、道路、水路等の維持補修については緊急的な対応が多いため、継ぎはぎ的な対応となるが、状況により予防保全的な維持、補修を計画的に実施している。 立地適正化計画において、居住誘導区域内を優先エリアとしたインフラの整備を行うこととしている。伊那バイパス、伊駒アルプスロードに関連する取り付け道路、また長寿化修繕計画による修繕など、現在取り組んでいる業務を継続して進める。 生活道路の整備については、よりよい住環境整備を目指して計画的な整備に努める。 令和5年9月一般質問： 「アスファルトの舗装について」 令和5年6月一般質問： 「市道のクラック 舗装改良について」 令和5年3月一般質問： 「子ども、高齢者にとってやさしい道路整備について」の答弁 令和元年度から令和3年度までの地元要望は、毎年全体で1,000件程度ある。そのうち舗装修繕は300件ほどで、そのうち60か所前後の20%程度を実施している。 また市民からの連絡やパトロールなどにより発見した小規模な修繕は、年間1,500か所ほど実施している。		

現状・市の対応（ 建設課 ）

上記過去の回答状況のように計画的な整備となるよう緊急性なども考慮し優先順位などをつけて修繕を行っていると考えていますが、今年度予算が増額されています。現状での執行状況はいかがでしょうか。

道路維持工事 順調に執行しています。

伊那地区	発注件数 50 件	執行率 90.9 %	
高遠地区	発注件数 15 件	執行率 81.1 %	
長谷地区	発注件数 10 件	執行率 98.3 %	合計執行率 89.5 %

舗装維持工事 順調に執行しています。

伊那地区	発注件数 33 件	執行率 92.8 %	
高遠地区	発注件数 10 件	執行率 66.1 %	
長谷地区	発注件数 10 件	執行率 98.8 %	合計執行率 90.8 %

（執行率には現在契約中の事業も含まれます。）

一般道路改良事業（工事） 少し遅れていますが年度内執行の見込みです。

発注件数 7 件 執行率 46.6 %

特定路線事業（工事） 順調に執行しています。

発注件数 5 件 執行率 96.3 %

※いずれも11月末時点

市議会としての考え・対応

伊那市は、市域が 668 km² と広く管理する道路延長も長いですが、必要な道路は整備していかなくてはならない。現在ようやく国・県道幹線道路整備がすすめられており、市道の 1 級 2 級道路などは国土強靱化の補助金を使い舗装長寿命化が進められているが、人口増加地域などの道路整備は極端に遅れている。市の財政は、将来負担比率ゼロと健全で、これから生きていく人たちが将来にわたって使っていくインフラ整備は起債などにより積極的に進めるよう、議会を通じて予算の増額も含めて強く働きかけていく。また、地区要望で出された箇所の整備状況及び進捗状況を確認し、生活道路整備（地区要望箇所）の計画を策定し、計画的に進めていくことについて市に働きかけていきます。

引き続き、一般質問などを通じて整備促進を働きかけていきます。

No	テーマ	処理担当委員会
30	屋内の子どもの遊び場について 公園関係	経済建設委員会
市民から出された意見		
・公園に日陰がない。あずまやなどの場所が欲しい。 ・公園の遊具が新しくなったのは感謝。でも日陰がない。すべての公園に休憩スペースを。 ・公園に屋根、日陰を作る ・鳩吹公園の駐車場が小分けにあるとありがたい。遊具のあるところに4、5台止められる場所が欲しい		
委員会での解釈、検討結果		
屋外の子どもの遊び場については日陰の設置が必須と考えます。東屋でなくても、植樹するなどして、ゆっくり過ごすことができるスペースを確保できるように要望します。 また、駐車場については遊び場とのレベル（高さ）に合わせた場所にあるべきと考えています。（駐車場から坂を上っていかなければ遊具の場所に行けないというのは不便） 新しい遊具も喜ばれていますが長時間の滞在も考えられるため、公園のトイレの改修も必要と考えています。		
現状・市の対応（都市整備課）		
公園に対する様々な要望があることは承知していますが、公園施設長寿命化計画の中でトイレ、その他施設の改修・修繕等を優先して取り組んでおり、その中で快適な公園の整備を検討したいと思います。 また、鳩吹公園の駐車場については、令和4年度に作成した鳩吹公園再整備計画の中で整備を計画していますが、実施にあたっては市の他の事業とのバランスを考慮し、着手する時期を検討していきます。		
市議会としての考え・対応		
昨今の気象状況を考えると、公園を利用する人も日よけを持参するなどの工夫も必要かと思いますが、市民の皆さんの声や、必要性の現状把握を市に求めています。		

No	テーマ	処理担当委員会
3 1	伊那北駅周辺のまちづくりについて 伊那北駅周辺整備	経済建設委員会
市民から出された意見		
・改札口を東側にも作って欲しい ・駅舎を機能的にして欲しい ・駅舎内のトイレはあるが、駅前にトイレがなく不安 ・線路高架 ・駅前ロータリーの拡充 ・駐車場、駐車スペース、停車スペース ・駐輪場スペース拡大が必要 ・駅周辺に若者の居場所がなく、店舗の駐車場に集団でいることがある ・伊那北駅周辺に公共 W i f i がある施設がない ・近隣学校の生徒数にみあった公共交通の充実 ・駅から直接の歩道橋設置、交差点の歩道橋設置 ・二条踏切交差点付近の道幅が狭い ・踏切の渋滞がひどい ・駅前ビルのワンフロアを借りて学習スペースとして高校生に提供してはどうか ・整備のために立ち退いた商店へ反対側への空き店舗への移動の補助が出るのか		
過去の回答状況		
令和 5 年 1 2 月経済建設委員会： 都市整備課答弁 駅舎それから伊那北駅前広場半分ぐらいのエリアまでが J R の敷地である。その用地を含んだ伊那北駅周辺整備基本構想の委託について、鉄道施設には鉄道に関する規制や基準が関係してくるのでそのエリアを含む調査については J R コンサルタンツに委託している。令和 6 年度中に基本構想策定予定 令和 5 年 9 月一般質問： 「伊那北駅前の再開発 若者の居場所について」 優良建築物等整備事業の 1 階もしくは 2 階などに高校生や若者が滞留できるような場所づくりも必要として検討している。伊那市駅周辺にはいなっせやアルラなどの自習スペースが充実しており、伊那北駅周辺にも設置が望まれている。 令和 5 年 9 月一般質問： 「東側への改札口の設置、駅前駐車場の確保について」 伊那新校と検討中の技術新校が集約されると今の駅舎では収容できないことになることを想定して、駅舎の作り替え、優良建築物の設置が予定されている。駅前ロータリーの車の退避場所や安全確保のための歩道橋など総合的に捉えている。 若者の居場所についても検討しているし、東側についても考慮している。改札口をどこにするか、2 階にして優良建築物とつなげるのか等、検討しているが多くの J R 東海の所管で市の一存ではどうにもならない部分がある。伊那北駅南側の踏切の改造もあるので J R と連携し、商店街の皆さんとも連携しながら整備計画を進めていきたい。 令和 5 年 8 月全員協議会での質問： 「高校再編も絡んで駐車場等、送迎車両等の駐車スペースがかなり必要になってくるかと思うが、そういう点も配慮した計画になるということでしょうか」 駐車場部分についても対応するように検討していく。		

令和5年6月一般質問： 「まちづくりも含めた学園都市構想について」

伊那北駅は単純に乗り降りする学生が2,000人 近くなるという試算がある。利便性や機能性向上のためには、駅周辺、駅前広場等に学生が滞留したり、自習ができる等が考えられるので、今から市民も学生も参加しながら検討していかなければいけないと思っている。

伊那北駅から伊那新校、技術新校への通学路は大変な混雑が予想されるので、歩きやすい環境整備を行っていく。スクランブル交差点ではない移動手段等もハード的に考えていくべき。

伊那市駅と伊那北駅を結ぶ中心市街地についてもウォーカブルなまちとして居心地がよくなるよう W i f i 環境やネット環境を作りながら、今の車社会ではなく、地方都市公共交通や歩くという手段についても視野に入れたまちづくりを考えていかなければならない

令和5年6月一般質問： 「高校再編からの中心市街地活性化、未来をみすえた伊那市のまちづくりは。市道二条線への高校生の集中によるインフラ整備は。」

伊那北駅南の二条踏切の改良については J R と協議が始まっている。伊那北駅前のスクランブル交差点にも幅広い歩道、歩道と車道の改良、歩行者も自動車も通行しやすい道路空間の再編、その他伊那北駅舎の建て替え、駅前広場の機能向上を目指し検討していく。

伊那北駅及び駅周辺の利便性、機能向上を図るために学生あるいは若者が使いやすい整備を手段として検討していかなければならない。民間で今計画している建物について、学生が滞留しやすい、使いやすいものを検討の項目として挙げていただきたいと、伊那市もしっかり意見を述べていく。特に学生が集まる憩いの場とか自習スペースやトイレ、コンビニ、駐輪場、さまざまなものも検討材料として中に入れていくつもり。

上記過去の回答から変更点や進捗状況（都市整備課）

- ・現在、伊那北駅周辺整備基本構想の策定作業を進めています。
- ・構想策定にあたって、山寺区特別委員会や計画地に近接する地権者を対象とする説明会にお集まりいただいたほか、交通量調査等の現地調査や J R 東海との協議を行い、伊那北駅周辺整備の考え方を整理しています。
- ・これまでの経過や各事業の概算整備費の算出後、内容を検討した後にお示ししたいと考えております。
- ・これまでの検討で計画段階から調査、事業着手など、竣工までたいへん長期に渡る事業であることから、それぞれの進捗に応じた説明に努めます。
- ・伊那市新しいまちづくり推進事業官民共創の新しいまちづくり協議会を編成しました。その中で伊那北駅周辺再生ワーキンググループを設置し、伊那北駅周辺のこれからのまちづくりについて検討を始めています。今後、ワークショップ等を開催し、市民意見の反映に努めるとともに、適切な情報発信を行います。

市議会としての考え・対応

- ・議会では様々な課題に対応するため、令和6年度からまちづくり課題検討特別委員会を設置しました。「官民共創の新しいまちづくり協議会」伊那北駅周辺再生ワーキンググループに参加しているメンバーから得た情報を委員会で協議し、実現可能と思われることは伊那市に提案していくつもりでいます。新しいまちづくり「対話・つながり・実現の場」に参加して、市民の皆さんと対話の場が持てればと考えていますので、多くの市民の皆さんの参加を望みます。
- ・官民共創の新しいまちづくり協議会と議会も連携し、未来を見据えたまちづくりを推進していきます。
- ・皆さんから出された伊那北駅周辺整備の要望につきましては、議会からも市へ伝えていきます。

No	テーマ	処理担当委員会
32	公共施設のあり方について 下水道施設について	経済建設委員会
市民から出された意見		
下水道に接続できるのにしていない事業者がいる（アパートなど）。		
委員会での解釈、検討結果		
未接続の事業者への対応を行政とともに検討し、早期に下水道へ接続していただけるよう進めていきたい。		
現状・市の対応（水道業務課）		
水道業務課で行っている接続指導について現状と課題を教えてください。 （現状） ・未接続者への対応につきましては、一般世帯と事業者を区別していません。供用開始区域（下水道が使えるようになった区域）にお住いの皆さんへは、供用開始のお知らせと共に、下水道法で3年以内に下水道への接続が義務付けられていることもお知らせしており、接続可能な方の大多数が3年以内に接続工事を行っています。 ・下水道本管整備もほぼ終了し、接続できる方は概ね接続が完了していると認識しています。 ・供用開始から4年を迎える未接続者へ接続依頼の文書を送り、接続できない場合は延長申請を提出していただき、未接続の理由等状況の把握に努めています。 ・延長理由は、一般世帯では、経済的理由や高齢者のみの世帯で後に住む人がいないなどの理由が大半を占めており、事業者では、経営的事情や浄化槽を使用中などの理由が大半を占めています。 ・供用開始から20年を経過した未接続者に対しては特別指導の文書を送り、接続に向けての働きかけを行っています。 （課題） ・経済的理由で未接続の場合、指導を行っているが接続に結び付かないことが多い。 ・高齢者のみの世帯は後継者不在や経済的理由で接続の目途が立たないケースが多い。		
市議会としての考え・対応		
個々のケースにより課題があることは承知しておりますが、義務である接続状況を注視しながら、下水道法に基づく下水道接続指導制度の指導実施が市によって適切に行われているか、対応を促していきます。		

No	テーマ	処理担当委員会
33	人口減少に伴う新たな地域づくり 保育園、小学校、中学校の今後について	総務文教委員会
市民から出された意見		
・今年中学入学26名。小学校入学6名。20人も減っている。今後どうなるか。 ・学校が合併になるのか心配。予算を付けて何とかならないか。 ・小・中学の統合は必要だが、未婚者が多く厳しい。手良婚活を再び設置も必要か。 ・将来、保育園小学校中学校はなんとか残って欲しい。 ・子どもが減少していく中で、保・小・中の一貫学校にできないか。 ・保育園は園児数が少なくても続けると言っている。一人になってもやってくれると光が灯る。移住や、出産して長谷の保育園に入れると良い。いつ閉園されるかビクビクする。 ・保育園問題。現在の年長園児20人が来年度小学校に上がれば、一気に園児数が減少する。園児数減少時の保育園の体制、対応が心配である。 ・長谷保育園は今2歳児が3人で全体の半分以上が移住者である。今後子どもがいなくなっていくとも廃園・廃校は困る。 ・子どもは保育園から中学まで一緒。仲が良くていいのだが、本当の東部中に。将来的には長谷中学校は統合を視野に入れて行った方が良い。 ・子ども教育として地域の歴史教育をもっとやって欲しい。地域を愛していないので皆出て行ってしまう。 ・小・中のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）があると良い（お年寄りの参加を含めて）。駄菓子屋等 ・中学生の部活は、長谷中だけでは人数が限られるので高遠中との部活統合はできないか。		
過去の回答状況		
令和6年9月一般質問、令和5年9月一般質問： 「部活動の在り方と地域移行」 令和6年度当初から部活動を地域移行を推進するため、コーディネーターを配置。4月からは庁内推進委員会を開催し、7月には児童生徒、保護者、教職員等を対象にアンケートを実施して現在分析を行っている。部活動の地域移行を考える中で、費用の課題、指導者の課題、地域による差など様々な課題が見えてきている。 地域移行の体制を整備し、協議会などを運営していく中で、運営支援や課題についても協議しながら部活動の地域移行を進めていきたい。 令和6年3月一般質問： 「小中学校を残すには。」 通学区の弾力化などの調査研究について、小規模特認校の活用をしている。伊那市の小中学校適正配置には現在の学校の配置を前提としながらも、児童生徒が減少していく中で、子どもたちにとって最も適した教育環境を提供するためにはどんな形がいいか幅広く検討していく。		

現状・市の対応（子育て支援課・学校教育課）

【子育て支援課】

伊那市は市域が広いことから、地域によっては規模が小さくても必要となる園があります。一方、出生数の急激な減少により定員の半分程度の園や施設の老朽化が進み改修に相当の費用を要する園も出てきています。また、全国的に保育士の確保が難しいなか、将来の子どもたちの必要かつ十分な保育環境を整えるため、園の適正配置を検討すべき時期に来ていると認識しています。

【学校教育課】

（学校の統廃合）

それぞれの小中学校の特色ある学びを大切にしながら、例えば小中一貫・連携の在り方について、地域性や歴史等を踏まえ、その地域にふさわしい小中学校の在り方を求め、研究・検討を進めて参りたい

（部活動）

自身が通う中学校に希望する部活動がない場合、委託指導という形で、他校の部活動に参加できる場合があります、学校長間で調整しています。他校の部活動に参加する場合の移動については、保護者の責任で送迎しています。

市議会としての考え・対応

今後の所管事務調査として調査、研究し、政策提言へ結び付けていきます。

No	テーマ	処理担当委員会
3 4	意見交換会参加者が少ない	広聴委員会
市民から出された意見		
参加者が思ったより少ない。広報の仕方を検討したらいいのでは。		
現状		
今回の市民と議会との意見交換会開催にあたっては、下記の広報を行いました。 議会日より7月号掲載、安心安全メール、 いーなチャンネル（議員出演特集コーナー、お知らせ）、有線、いなあいねっと、 長野日報掲載、Facebook、Instagram、各会場チラシ配布 総務文教委員会：チラシ 手良地区全戸配布、長谷中、小学校教員PTAへ配布 社会委員会：チラシ 子育て支援センターに配布、地区民児協配布、ケアマネ等事業所へ 配布 経済建設委員会：山寺区 回覧 全議員：それぞれ案内チラシ配布		
市議会としての考え・対応		
市民の皆さんの身近な問題や議会に求めることなどの市民ニーズについて情報収集し、参加しやすい会の設定を検討するとともに、効果的な広報についても様々なものを取り入れ充実させるように検討します。		

3 各会場参加者から出された意見

開催日	会場	テーマ
令和6年 7月4日(木)	手良公民館 (てらとびあ)	人口減少に伴う新たな地域づくり ・地域内の移動手段 ・自治会(区)のあり方 ・保育園、小学校、中学校の今後について
○地域の移動手段 ・タクシー代が高い。 ・まだ、買い物弱者が多い。 ・医療機関の中には、ぐるっとタクシーの条件を取り込んでくれている医療機関もある。 ○自治会のあり方 ・行事に参加する方が少ない。 ・中学生、高校生、いろんな年代で地域の事を一緒に行えば、いろんな経験ができ、大人の中で育つのでは。 ・南箕輪南原は人口が増えていて、役員の成り手の心配はない。景観が良い事、インターが近い、道が良い事もあるが、景観は手良も良いので何かできないか。 ・区の財産管理にあたる人が減っていく。 ・実家の近くに長男が家を建てたが、区費を別に要求された。 ・保育園未満児対応が必要。 ・新しく地域に入ってくる人と、住民との関係(コミュニケーションの取り方)が必要。 ・空き家が多く、家境が不明確であり困っている。今後も増えそう。 ・挨拶をする人が減っている。 ・地区の行事が減ってきたが、多くしないと活性化にならない。高齢者も参加できる状況と移住者の参加を戻したい。 ・年寄りが活動すべし、元気で頑張るべし。 ○保育園、小学校、中学校の今後について ・寺子屋を作ったらどうか。 ・大人が学校へ行き教える。 ・地域の大人が得意分野を教えたらどうか。 ・中坪に野外保育園山の遊び舎はらぺこがあるが、手良に住んでももらえると人口が増えるが。 ・山の遊び舎はらぺこの未満児家庭の移住を考えてもらう。 ○人口減少、地域づくり ・手良出身者に戻ってきてもらう。いかに手良に戻るか。 ・若者が地域に戻ってこない。 ・お試し住宅があると良い。 ・手良、富県地域共通している所はアパートがない。 ・未婚の人が多く、人口減少に繋がっている。 ・手良竜東地域に魅力ある建物を。 ・新たな地域づくりへ、企業誘致。土地は安い。物流産業へ繋げて欲しい。 ・手良が不便だと思っているから人が来ない。みんな気付いていない手良の良さがある。 ・北殿駅、田畑駅に向かう道路、美簗グランド脇道路に防犯灯がない。 ○買い物 ・地域に店がない。ちょっとした物を買える店があると良い。 ・コンビニがない。 ・買い物バス。地域の婦人の皆さんが募って、お店へ行き、何か食事等をする事ができればいい。		

- ・高齢者の買い物難民が多い。買い物代行とか社協と連絡を取り合ってボランティアを募って取り組むこと。

○その他

- ・地区内に市議会議員がいない。要望など声があがらない。
- ・手良には歴史ある名所旧跡の場所があるので活用すると良い。
- ・子どもへの補助金を。

開催日	会場	テーマ
令和6年 7月5日(金)	伊那公民館	認知症に関わる支援について
○認知症予防に何が必要か。何を活用しているか。 ・歌謡体操(月2回、自分で予定を必ず決めて出かける。) ・長谷地区は山と川とで分断、茶話会が以前はあったが今はない。集まれる機会。 ・自分でどのように生きるか「気づき」が必要→行政の役割は。 ○認知症についての考え方、とらえ方、教育 ・長生きすると努力しても認知症になる確率は増える。 ・他の病気を抱えながら認知症と向き合う余裕がない。現状を守るだけで必死。 ・人間ドックにはお金をかけるようにしている。 ○認知症に対する不安(紙に書いた意見) ・介護予防のために音楽を使ったプログラム(主に昭和の歌謡曲)を作って1時間楽しんでいるが、特に男性の参加者が多く喜んでくれている。男性の参加者がカギになると思う。 ・昭和歌謡を中心とした内容で、胸弾む青春の思い出は心に残っている方が多い。その頃の胸のドキメキ、高鳴り、心の瞳の輝きを思い出せるプログラムを作るといいと思う。 ・ロマンス塾を1年間やる中で、テーマ(物語を作って)順を追って実施していくと、認知症の方の理解を得られるような気がする。 ・事業対象者が約18人中6人来ているが、一般の方との交流を楽しみに来所し、ほとんど休まず楽しみに来ている。 ・参加者が自発的に新たな参加者を誘っていることが嬉しい。受け身から自発的に行動する取組み ・誤飲防ぐ吸引器欲しい。医師と介護者との同行2人で歩んで欲しい。 ・良い所 介護度5でおむつ券もらえる。ゴミ袋もらえる。介護者に月6,000円出る。 ・地域のサロンの活動は活発で大変素晴らしい。女性のパワー万歳!! ・対応する市役所職員が少ない?印象がある。 ○認知症に対する不安や意見の発表 ・ロマンス塾では、音楽スタジオを月2回開催。1時間15分、語り合う。介護は15年間続いている。昭和歌謡を中心に音楽を使ったプログラムを使用。利用者は18人。音楽で引き込む。事業対象者の心を例えるとイソギンチャク。イソギンチャクの中の物を取り出す。男性に多く参加してもらい、役目を与える。自分自身も非常に楽しい。 ・伊那郡宿は、昭和の雰囲気が良い。是非ロマンス塾を開催したらと思う。故郷に帰る格好の場		

所、幸せになれる場所である。

○本人の問題

- ・認知症の一人暮らしで、地域で迷惑行為があるとマイナスイメージが強くなる。

○家族、家庭生活について

- ・老々介護の場合、認知が関わると疲労が激しくなる。
- ・生活スタイルの変化や、職場での理解、特定の家族に負担が増えることで、家族で担うことが難しくなっている。

○地域住民の理解

- ・日常から地域住民とのコミュニケーションを大切にしていく。
- ・地域の中でどなたが認知症なのか情報が出てこない。隠したがる。

開催日	会場	テーマ
令和6年 7月9日（火）	いなっせ5階	伊那北駅周辺のまちづくりについて
○駅前開発、伊那北駅を伊那市の玄関口構想 ・飯田線で交通系 IC が使えたら便利。現在は車内で清算をしないとイケない。 ・100名規模の会議や懇親会ができる場所が欲しい。まちの中心地に欲しい。 ・交番を駅前に欲しい。交番がないので安全面が心配。 →治安が悪くならないように交番があると良い ・周辺に学校が多いので無断駐車が多い。伊那小学校、伊那北高校、上伊那農業高校 ○意見聴取の方法 ・若者の意見をぜひ聞いて欲しい。実際に利用する若者の意見を聞いて取り入れて欲しい。 ・意見を幅広く聞くことができていない。 ・学生などは別に意見を聞いていて、世代を越えた意見交換ができていない。 ○その他のご意見 ・マンションは必要なのか。住宅ができれば駐車場が必要になる。その分、駐車場が増えると足りるのか ・駅前のマンションの計画（場所、土地交換など）の進捗を知りたい。商店街にも影響が出るので、状況を逐一知りたい ・伊那北駅から伊那市駅にかけての「賑わい創出事業」という名目でいろいろやってきている。中心市街地の活性化と何十年も言っているが何もできていない状況。高校再編に伴って活性化を図ると言っているが、具体的にはどうするのか。シャッター街はどうするのか。 ・通り町周辺には商売と子育てが一体化したような子どもの居場所とか高校生の居場所ができてきているが、坂下、山寺の商店街は少し寂しく感じる。高校再編によって伊那市駅よりも伊那北駅に子どもたちが集まるようになり、受け皿ができれば生きる力が湧いてくる。そういう街になればいい。		

- ・シャッター街を賑わい創設のイベントとして開けるのはいいと思うが、そこで持続的な商売が成り立つのかどうか。街の将来が見えない。
- ・西町には10店舗以上の新しい店が生まれていて、内9割を女性がやっている。これが新しいまちの礎になると思っている。これは山寺でもできるし、空き家や空き店舗を使った半官半民の住宅を作ってはどうか。
- ・伊那北駅を中心としたまち開発は、今、伊那市ができていないこと（移住者を定住させることや若者の流出）をやれるチャンスであり、エリア全体の未来に繋がる大きなターニングポイントだと考える。
- ・（まちの）人との繋がりを設計に入れていかなければ今までと同じになるのではないか。
- ・伊那北駅周辺の再開発について、議会としても意見をまとめて県へ陳情をしてもいいのではないか。
- ・伊那北駅から伊那市駅のまちづくりは単発ではなく広い視点で、集客のできるお店づくりに投資してもらえよう要望する。
- ・高齢者介護施設と保育園を合体させてフロアを使うのも良いのではないか。
- ・駅前に植えた桜や花の手入れは地区にとって負担となっている。
- ・まちの賑わいがなくなっている。
- ・商店街各店舗の高齢化と後継者不在
- ・学生が増えても地元商店街への恩恵は見込めない。
- ・伊那北駅から上農高校までの間にゴミ箱とトイレを設置して欲しい。

開催日	会場	テーマ
令和6年7月11日（木）	長谷総合支所 （新庁舎）	人口減少に伴う新たな地域づくり ・地域内の移動手段 ・自治会（区）のあり方 ・保育園、小学校、中学校の今後について
○地域の移動手段 ・黒河内地区の人が1回500円で送迎することを検討中のようだ。 ・毎週木曜日におのりな号（2台）により買い物支援をしている。 ・障害を持たれるお子さんの送迎をなんとかできないか。 ○自治会のあり方 ・長谷地区（市野瀬区は除く）は民生委員が社協会長を兼務しており大変である。（長谷地区の以前からの運用か） ・社協役員の手当を上げて欲しい。コピー用紙、インク等は全て自腹である。		

○保育園、小学校、中学校の今後について

- ・長谷は不便で帰って来なくても良いとしている所もあるが、子どもに対して、大人になってもここで生活する良さを伝えても良い。
- ・子どもが減っているのは自然。フリースクールなども取り入れてはどうか。

○人口減少、地域作り

- ・移住者の都会の考え方、田舎の考え方の違いで困る事もある。移住者には区の実情を理解してもらい、その地域にあった人が入ってきて欲しい。
- ・地域の活性化に企業が核となり、文化的な魅力のある田楽座などとコラボする事で人が集まってくる。
- ・経木、ほうば巻、柏など伝統的な物と自然をマッチさせる事で長谷へ帰りたいと、地区外へ出た人も戻ってくる。
- ・受け身ではなく過疎地に熱心な企業誘致を。
- ・人口流出に関して、きっかけがあれば出ていきたい人が多い。コンビニまで15分。嫁も来ない。役員もできない。
- ・長谷にコンビニを。商工会が中心でコンビニを作って欲しい。
- ・ドローン物流は現在不具合があり止まっているようだ。
- ・草刈りや清掃に出なければ出不足金払わなくてはならない。草刈りを自動化して欲しい。
- ・農業中心の社会になり過ぎていないか。(長谷地区の場合、他に産業がないので)

○その他

- ・生きているうちに終活どうするか。(家、土地)
- ・移住者はリフォームして入居してくれる。「ここはいい所だね。安心、台風、地震、水害もない。」と話す。
- ・長谷は良い所。そこをもっと前に出してはどうか。
- ・長谷の人はもう少し美和診療所の利用拡大を図るべきである。

開催日	会場	テーマ
令和6年 7月16日(火)	allla(旧伊那消防署)	今後の公共施設のあり方
○市の建物(将来のメンテナンスを見据えた計画が必要) ・羽広荘の有効的な利用(民間への売却など)をしたらどうか →借主が見つかった点を説明済み。 ・大規模な道路整備より高齢化社会に向けて必要な公共事業を優先して欲しい。 ○災害(災害に強い設備計画が必要) ・自然災害への備え(予算面)は充分であるか。→災害発生時の復旧対応を、もう少し早く実施できる体制が必要ではないか。 ○インフラ(予算をしっかりとつけ安心安全に暮らせるインフラ整備が必要) ・上下水道設備を健全に保って欲しい。計画的に設備の更新などを実施して欲しい。		

○街部

- ・残すことも大切だが、使っていなければ朽ちていくだけ。地域の人の感情だけではなく、壊すことも大事。何を残すか、何を残さないか議論することが必要。
- ・コンパクトシティ化していかないとやっていけない状況になるのではないかな。
- ・長谷の奥の地域にも少数ではあるが実際に人が住んでいるので、インフラもサービスも必要になる。コンパクト化は難しいのではないかな。
- ・伊那市には安心して遊べる公園が少ない。特に西春近。し尿処理場の跡地に予定されている公園は道路に面したスペースしかない。たぶん利用しない。
- ・バイパスの早期開通。通勤ラッシュ解消。生活しやすいインフラづくりは働きやすいインフラづくりにつながる。道路が整備されているところが発展している。
- ・中心市街地の駐車場について、あんなに必要なのかな。

○過疎地区

- ・小学校に公民館や学童保育や保育園も入れ、一元化することでコミュニティも残せる。教員や調理員の不足への対応にもなる。

○広域化

- ・伊那の高遠美術館や歴史博物館、創造館、中川の歴史民俗資料館、駒ケ根のシルクミュージアムなどの文化施設や観光施設を広域化して維持管理してはどうか。

○課題問題点について

- ・どんな施設がどこに、どのくらいあるのか。また利用状況が分からないので市民が課題認識できない。
- ・引っ越してきたので、何処にどんな公共施設があるか全く分からない。
- ・市内にどんな公共施設があるか分かりやすい一覧表で公表して欲しい。
- ・各施設の維持管理にかかる現在の経費と物価高騰を見据えた将来的な維持管理経費を算出して示して欲しい。
- ・不足している施設と不要と思われる施設についてのアンケート調査の実施
- ・アンケート調査と現地調査をして各施設の重要度を明確にする。

○テーマ外で公共事業に対する意見

- ・企業誘致には賛成できない。

○すぐに取り組んで欲しいこと

- ・議員への要望として良い事例を視察して参考にして欲しい。(箕輪町みのわベース、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）が進める地方都市再生の取組み 等)

○長期的に取り組む課題

- ・Ｕターンが増えるような地域づくり（働く場所、住む場所として選ばれる地域づくり）
- ・福祉施設の充実を図る。

開催日	会場	テーマ
令和6年7月27日(土)	福祉まちづくりセンター(山寺)	屋内の子どもの遊び場について
○普段の遊び方、行って面白かったところなど ・図書館。うちでゲームはさせていない。工作や粘土遊びは体力が発散できない。 ・スラックライン、ボルダリング ・木曽おもちゃ美術館、飯田おもちゃミュージアムグリュン ・ボードゲーム、カードゲーム(ツタヤなどにはコーナーがある) ○疑問、質問 ・新たな箱物を作るのか。あるもので対応するのか。 ・どこが使えるのか。 ・ボールが使える場所は。飲食は可か。 ・行政に子育て中の当事者が少ないのではないか。 ○今後の希望、要望 ・公民館→区長さんなどに理解してくれる人が少ない。 ・工作→親の経験、片付け、保育園を参考に場所をつくりやすい。 ・美原防災スポーツセンターについては、子育て世代(親)の意見を聞いて欲しい。 ○使える施設、アイデア ・公民館が使えるように地元理解を呼びかけて欲しい。補助金を出す(改修、管理費等) ・子育て支援センターについて、行きづらい、いい感じに放っておいて欲しい。 ・学童保育 ・長谷保健センター ・空き店舗 ・市役所のロビー ・高遠図書館の部屋 ・防災コミュニティセンター ・元山の遊び舎はらぺこの家 ○意見交換会に参加したきっかけ ・意見交換会のテーマに関心があった。 ・天候がちょうど良かった。 ○意見交換会を知った理由 ・チラシ、友達の誘い、市報、回覧板 ○(委員長)社会委員会は、若い人の意見を聞きたい。開催時間を昼間の設定にしたが。 ・良いことだと思う。夜の開催だったら来られない。託児もあって良かった。 ○屋内の子どもの遊び場について ・外が非常に暑い。屋根が欲しい。また、雨が降ったら困る。 ・屋内の子どもの遊び場は、飯田市には再利用施設として既にできている。 ・駒ヶ根総合文化センターに、水で遊べる公園があった(地面から出るやつ)。市内にあるか。 ・クリーンセンターを足湯やプールにしたら。 ・高遠プール最高。室内プールにキッズも入れる所があると熱中症対策になる。 ・市内の子育て世帯に向けた店舗マップは全然リアルを見てない。飲食店に子ども連れが入りやすくなるパンフレットがあるといい。 ・屋内でも体を使える部屋(ボール遊び、体操、縄跳び、ボルダリング、リトミックができる部屋) ・好奇心ゾーン。電車好きの部屋 ・恐竜や宇宙の模型の部屋 ・海外をテーマにした部屋。色々な国の写真や暮らし方、国旗、外国籍のお友達を知れる。 ・お店屋さん(小さなお店)、おでん屋さん、お菓子屋さん(キッズニアの商店のような) ・紙を使って遊べる部屋(木曽のおもちゃ美術館のようなもの)		

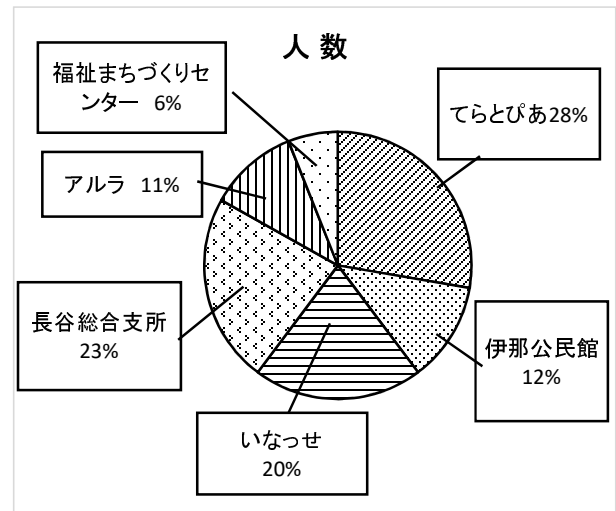
- ・絵描きゾーン。自由にクレヨンや色エンピツで描く。
- ・伊那の歴史ゾーン、学びとして。
- ・雨読晴耕、雨の日は図書館。読書ルームは声を出せないのが難点
- ・川崎市子ども夢パークを伊那市に欲しい。
- ・子どもたちが自主的に遊べる施設
- ・巨大プールを設置する。水泳大会を開催 ・水鉄砲大会 ・雨を利用した遊び大会
- ・カヌー等、川を使ったレジャー ・川のレジャー。子ども用スペース
- ・アイス自作大会
- ・古民家の再利用
- ・お化け屋敷ツアー(市民による)
- ・電車の車両を開放→遊び場→回遊
- ・伊那の木を使って工作
- ・木工のススメ
- ・クイズ大会
- ・レーシングコース。風を切る。
- ・巨大滑り台(ソリ)。 風を切る。
- ・オムツを捨てられる場所を増やす。
- ・市の予算が少ない。

第8回 市民と議会との意見交換会アンケート集計表

意見交換会参加人数: 91人
 アンケート回答人数: 83人
 (回答率: 91%)

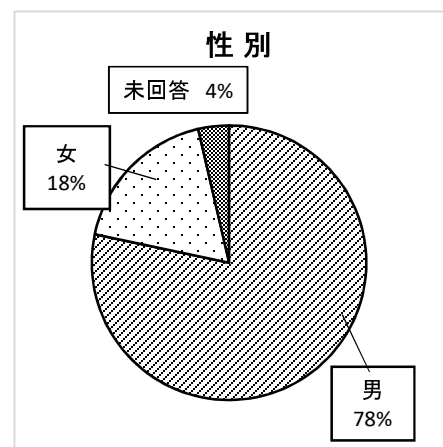
参加会場

	人数	割合
てらとびあ	23	28%
伊那公民館	10	12%
いなっせ	17	20%
長谷総合支所	19	23%
アルラ	9	11%
福祉まちづくりセンター	5	6%
	83	100%

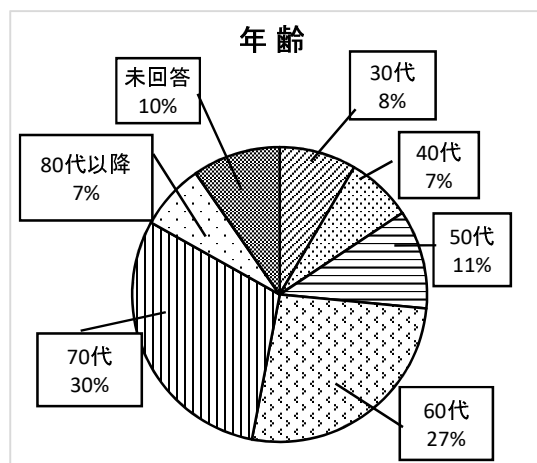


性別

	人数	割合
男	65	78%
女	15	18%
未回答	3	4%
	83	100%



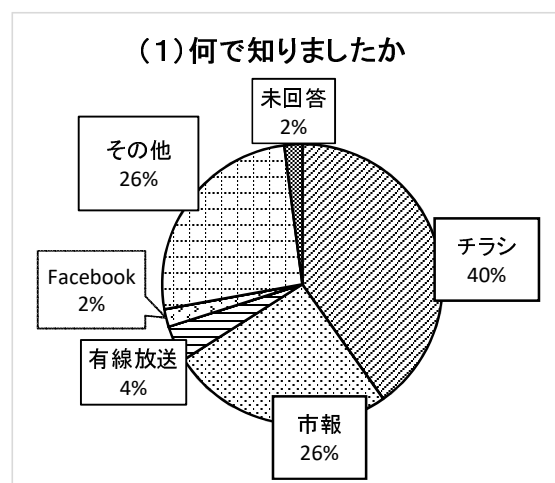
年齢	人数	割合
10代	0	0%
20代	0	0%
30代	7	8%
40代	6	7%
50代	9	11%
60代	22	27%
70代	25	30%
80代以降	6	7%
未回答	8	10%
	83	100%



1 市民と議会との意見交換会について

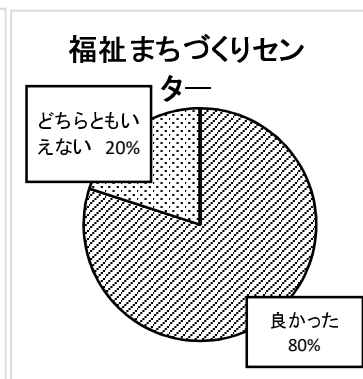
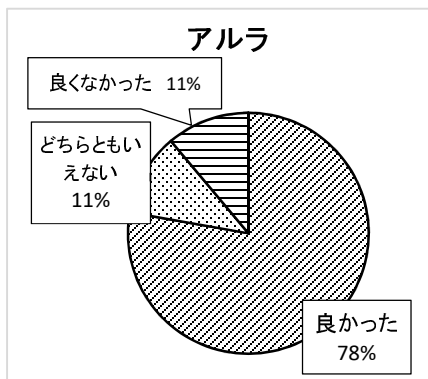
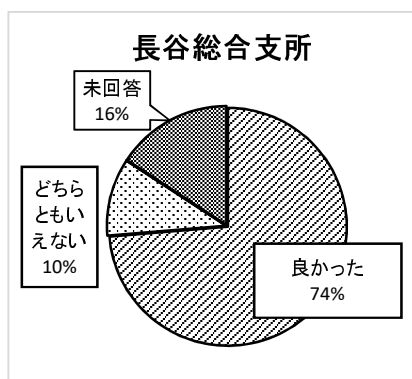
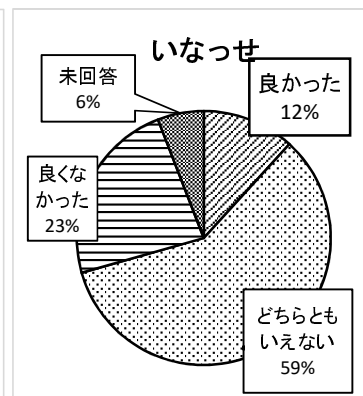
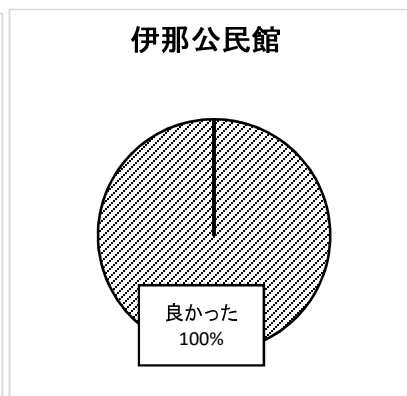
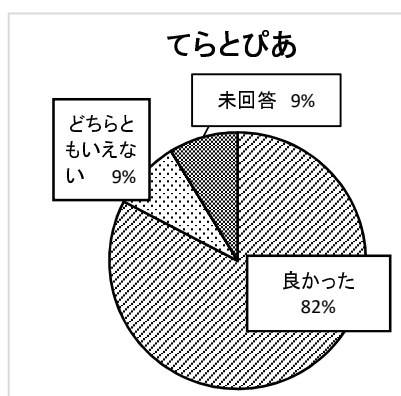
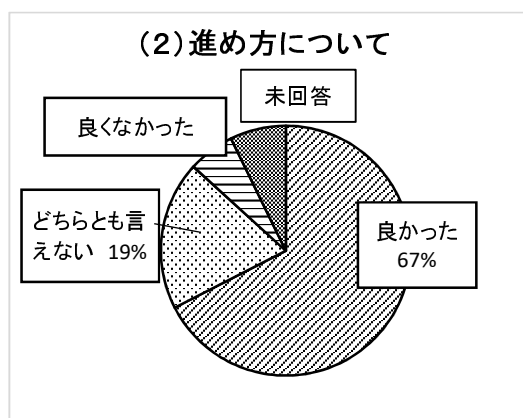
(1)この意見交換会を何で知りましたか

	人数	割合
チラシ	39	40%
市報	25	26%
有線放送	4	4%
ケーブルテレビ	0	0%
Facebook	2	2%
Instagram	0	0%
その他	25	26%
未回答	2	2%
	97	100%



(2) 意見交換会の進め方について

	人数	割合
良かった	56	67%
どちらとも言えない	16	19%
良くなかった	5	6%
未回答	6	7%
	83	100%



てらとぴあ

- ・ワークショップ形式で良い意見が出た
- ・各人が関連な意見が出てよかった。
- ・フリートークで反対する声をあげなく、思いの一端を語られた。
- ・議論が具体的に深められた内容になっていた。
- ・多くの意見が出てよかった。
- ・いろいろな話がでてきた。
- ・意見を出せないという人がいなかった。1人ひとり自分の考えを話せた。

伊那公民館

- ・よく議論ができた入口としたらOK
- ・具体的な意見が聞けた。
- ・最初に簡単なレクを入れるのはとても良かったです。
- ・少人数集団と紙でかくこと。
- ・1つ1つの疑問等を紙に書きはり付けた事。

いなっせ

- ・ピンポイントの意見が出た。
- ・進行方法が混乱したこと。

長谷総合支所

- ・進行がスムーズだった。
- ・1つのテーマについて議論を進める方が深まる。
- ・他地区の意見が聞けた。
- ・情報が共有化された。
- ・わかりやすくして進行良かった。
- ・色々の人の意見が聞けた。

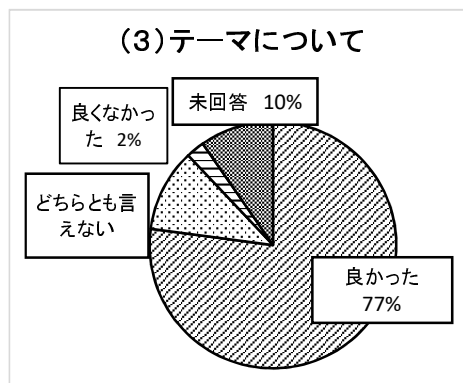
アルラ

福祉まちづくりセンター

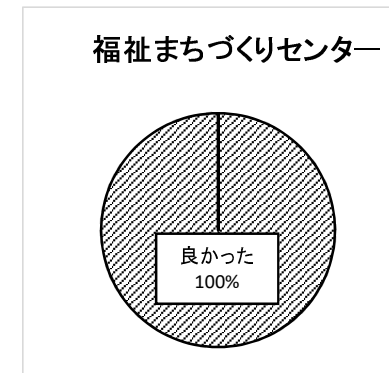
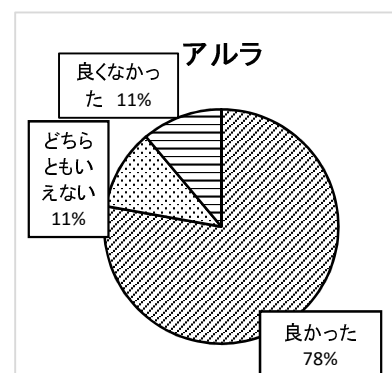
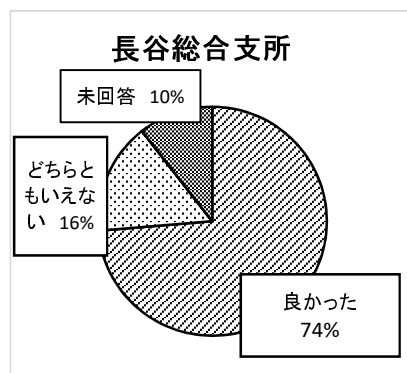
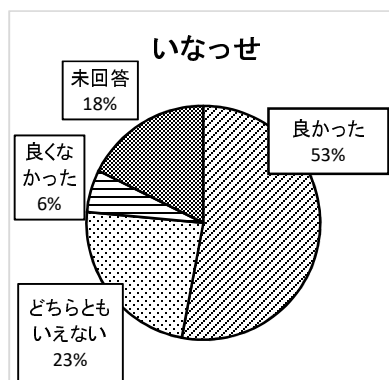
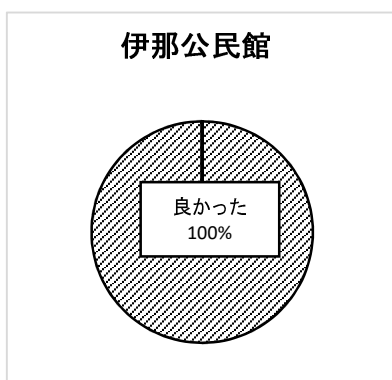
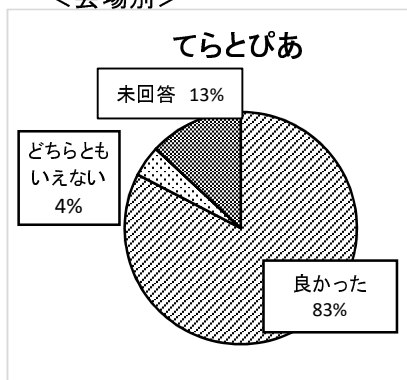
- ・ ざっくばらんに発言出来た。
- ・ テーマの論点が不明確であったと思います。
- ・ 最初に現状の課題が示され、方向性がある程度見えてきた。
- ・ 班のファミリーター役の二瓶さんのすすめ方は安心感がありました。
- ・ 話せる時間が沢山あった。
- ・ 時間がたりない！

(3) 意見交換会のテーマについて

	人数	割合
良かった	64	77%
どちらとも言えない	9	11%
良くなかった	2	2%
未回答	8	10%
	83	100%



<会場別>



てらとぴあ

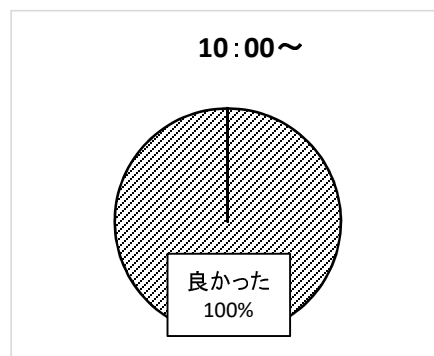
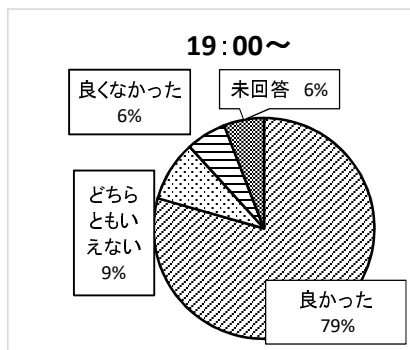
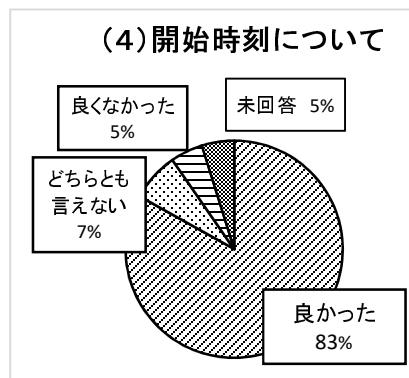
- ・ 重要なテーマだけど、3つは多かったかと。
- ・ ワークショップ形式で良い意見が出た。
- ・ どの地区でも共通の課題。他の人の意見が参考になった。
- ・ 足の確保が根本の問題ではないか。
- ・ 必要性のあるテーマであった。
- ・ 地域の問題
- ・ 人口減少に対する対策のアイデアが多く出て参考になった。
- ・ タイムリー
- ・ 手良地区の現状にあったテーマであり、将来を憂う点からも語り合えた。
- ・ より具体的な例が出てきたこと。
- ・ 深く考えさせられるテーマでした。
- ・ 1つにしぼった事。

伊那公民館

- | | |
|-------------|--|
| いなっせ | ・ 自身も高齢者だから。 |
| | ・ 地元で直結したテーマ |
| | ・ 過去に同じテーマでミーティングをしているのでその結果進捗状況を説明してから進めて欲しかった。 |
| 長谷総合支所 | ・ テーマは無限。 |
| | ・ 人口減少に伴う新たな地域づくり。 |
| | ・ 人口減少に伴う新たな地域づくり。意味がわかりにくい。 |
| | ・ 各個人なり、各区のなやみがわかった。 |
| アルラ | ・ 長谷地区における問題。 |
| | ・ 改めて公共施設の事を考えたから。 |
| | ・ 見直しに議論が進んだこと。 |
| | ・ 再認識することもあり楽しかったです。 |
| | ・ 普段話す事がないテーマなので、ワークショップは良いです。 |
| | ・ テーマと意見交換の内容が一致していないのではないのでしょうか。 |
| 福祉まちづくりセンター | ・ 現在必要な事項が話題となっている。 |
| | ・ 子育てしている立場のふだんから思っていることが伝えられた。 |
| | ・ 子育て世帯の大きな課題でしたのでとてもよいテーマです。 |
| | ・ 子育て世代にとって重要な問題です。 |

(4) 意見交換会の開始時刻について

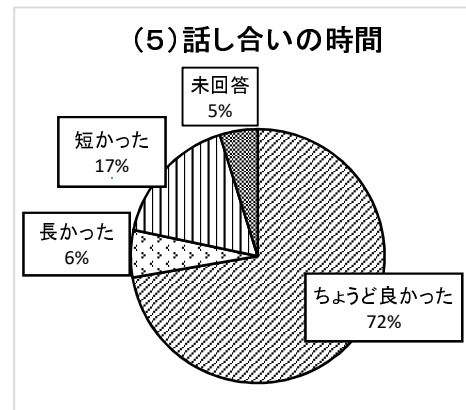
	人数	割合
良かった	69	83%
どちらとも言えない	6	7%
良くなかった	4	5%
未回答	4	5%
	83	100%



- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな立場の人で良かった。 ・ 仕事のある日の為 ・ もう少し早い時間。 ・ 18:30～で良くないか？ ・ 18:30～ ・ もっと長く。 ・ もう少し早いと仕事帰りに寄れる人が増えるのでは。 ・ 日中にお願いしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 午前に終われば午後から予定を入れられる。夕方以降はムリです。 |
|---|--|

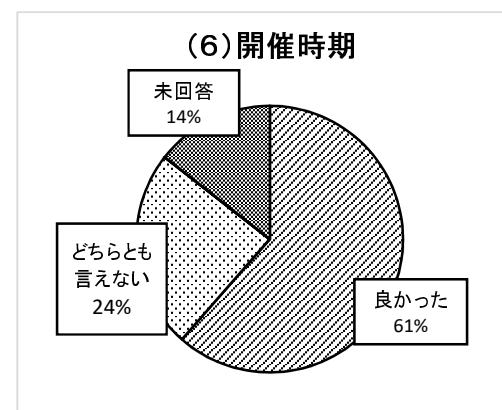
(5) 意見交換会の話合いの時間について

	人数	割合
ちょうど良かった	60	72%
長かった	5	6%
短かった	14	17%
未回答	4	5%
	83	100%



(6) 意見交換会の開催時期について

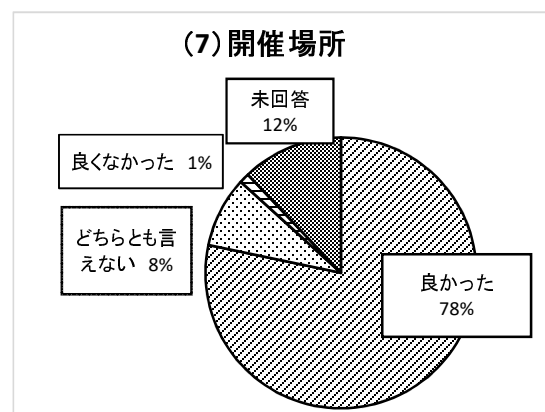
	人数	割合
良かった	51	61%
どちらとも言えない	20	24%
良くなかった	0	0%
未回答	12	14%
	83	100%



- ・ いつでもどこでも良い。
- ・ 問題点が多く出た。知らない事も多かった。
- ・ 時期はいつでも良いと思います。
- ・ 年2回くらいやってほしい。

(7) 意見交換会の開催場所について

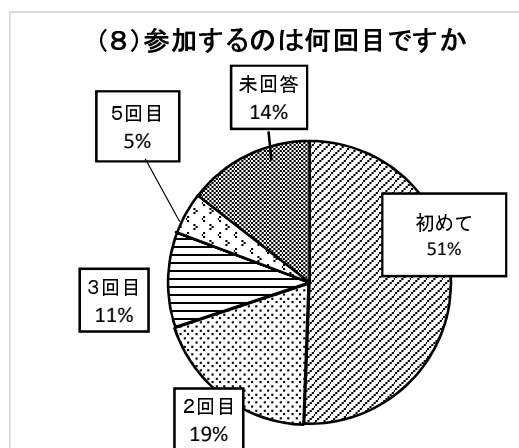
	人数	割合
良かった	65	78%
どちらとも言えない	7	8%
良くなかった	1	1%
未回答	10	12%
	83	100%



新庁舎気持良い。
初めてアルラの施設を利用できました。
託児ありがたいです!!

(8) 市民と議会との意見交換会に参加するのは今回で何回目ですか。

	人数	割合
初めて	42	51%
2回目	16	19%
3回目	9	11%
4回目	0	0%
5回目	4	5%
未回答	12	14%
	83	100%



2. 意見交換会に望むこと、開催、運営方法等についてのご意見

てらとびあ

- ・ 広報をしっかりと。SNSとかで各議員もしっかり発信してほしい。若い人は「紙」見てないです。
- ・ 世代事や移住者といったカテゴリーでの対話もあって良さそう。
- ・ 各回にどの議員さんが参加されるのか、あらかじめ知ることができると嬉しいです。自己紹介の時や各グループの発表の時は、拍手をするように促す等、場を和やかに、話しやすい雰囲気づくりが大切だと思います。
- ・ 参加者の名刺をつくるとお互いに呼びやすいと思います。若者が参加できるような工夫が必要だと思います。
- ・ どのグループでも、区の役員不足、若者の流出等、課題が出ていますが、当事者を呼んで意見を聞いたり、参加者というよりゲストとして呼んでくるような準備があってもいいのではと思います。手良地区の田舎暮らしモデル地域指定までの道のりを聞きたかったです。
- ・ 意見交換の場があったことはとても参考になり今後も考えていきたい、素晴らしい会に思いました。
- ・ テーマをしぼる。
- ・ これからも同じ方法で良いと思います。
- ・ 良い意見が多く出た様な気がします。自分の気付かないものがありました。
- ・ 3つの視点 時間少ない点と反対に一つだと盛り上がりがないかも。
- ・ 開催会場地区の住民参加が多い為、地区の現状、問題を意見する場面が多く伊那市全体の問題の意見交換にならなかった。
- ・ 若い世代の参加を望みます。
- ・ 参加者が地区の役員が多くもう少し若い方々に参加していただきたい。
- ・ 多くの参加者がおり手良地区を考える良い機会であった。
- ・ 各地区で開催されているので、都合があれば他地区へ出席してみたい。
- ・ 有線放送で再々流れていたが、まだまだPR不足だったのではないかな。強制的な動員も必要だったかも？
- ・ 今回の内容をどのようにフィードバックされるか？生かされていくのか？市報・議会報告をお願いします。
- ・ 若者の姿が見えない。若い人の参加をうながすべき。

伊那公民館

- ・ ファシリテーターとしての技術があると、意見をまとめて発表する時に生かせると思います。市議会議員の皆様にも、ある程度の知識と技術を身につけていただけるとスムーズに進められると思います。
- ・ 引き続き開催をお願いします。
- ・ 貴重な機会、もっと多くの方の参加があるとよい。

いなっせ

- ・ 老害と云う言葉が良くわかった。
- ・ PTA役員(小中高)に参加依頼したらどうか？
- ・ 前回の状況を説明してから開始して欲しい。
- ・ 議会の意図した「ワークショップ」形式が出席者の発言により中止に至ったのは意外だった。再考すべき。

長谷総合支所

- ・ 区町内会組自治会は必要か。市民でいいのでは。
- ・ 議会との意見交換会の内容が少しでも市政に反映できるよう、議会の皆さんには努力をお願いしたい。
- ・ 過疎地は多くの問題があり対応策はむずかしいが良策を期待したい。
- ・ 運営の仕方が、議論を深める形でなくテーマと言葉を集めるだけではないか。
- ・ 明るい未来を望める若者カップル増産の環境づくり。
- ・ 年配が多い。若者の意見を頭ごなしに「そりゃムリだ」と言われると来る気も意見する気もなくなる。そういった方の影響で若い人が来ないのではないか。
- ・ 自分事でない人が意見するだけでなく、当事者が来られる形にできたら良さそう。
- ・ もっとたくさん開催して欲しい。

アルラ

- ・ 市議各人のテーマについての意見(演説)を話す場があった。市議の人の考えを市民が知れるのかと思う
- ・ 最初に公共施設の説明があってもよかった。(プレゼン)
- ・ 委員長の挨拶は手短に。
- ・ テーマが大きすぎて話しがバラバラであり、まとまりにくい。もう少ししぼっても良かったかもしれない。
- ・ 市民の皆さんに広く広報して欲しいです。

伊那市福祉まちづくりセンター

- ・ 託児はとっても助かりました。小学生にも良い楽しめる場だとよかった。
- ・ 託児をつけて預けたから参加が叶いました！
- ・ 朝の部、午後の部、夜の部があっても良いのでは。
- ・ 来られなくても意見を事前に集める方法を考えていただきたい。私も事前にママ友にきけばよかった……。
- ・ 市民の声を積極的にきいて下さる市政でとても感激しております。
- ・ 議員の方も意見を出していて、「一緒にこの町をつくる仲間」と感じました。
- ・ 最初のあいさつ(小林さん)がとても良かったです。「市民の声を忌憚なく言える！」と思いました。
- ・ 子育てというテーマでいうなら、小学校・保育園などにも(今もアプリ配信があるので)拡散させて、もっと幅広い意見交換をしたい。
- ・ 広報がんばってください。保育園、幼稚園にチラシくばってください。
- ・ チラシ作ったらどうでしょう？託児ついていたら来やすいと思う。もしくは、子どもは、「かず先生」などの教室に参加できる。みたいな。
- ・ 良かったです。話し合いの結果、その後の動向が分かるとよい。

3. その他ご意見

てらとぴあ

- ・ 子供が社会全体で減っています。伊那市内ではもっと手厚く子供を産んでも育てられるように補助金を増やして欲しいです。(南箕輪全体で増えたように伊那市も頑張ってもらいたい。)
- ・ 他地区の思い事情を知れる良い機会となった。それぞれの事情を市民全体で共有できれば解決につながるのではないかな。地区ごとの強みでカバーできる(カバーしあえる)伊那市になりたい。
- ・ 道路(野底線)の整備が必要な所がある。対応されたい。(橋)
- ・ 地域のための市議がほしいな？
- ・ 今日出た意見を1つでも市政に活かしていただけると幸いです。

いなっせ

- ・ いづれにしても金のかかる(事業)話であり、市議会の名において「行政改革」をしてその財源を産み出すことを考えて欲しい。

長谷総合支所

- ・ 人口減少対策について ①地域に産業の核となる事業をよび込むこと。
②多文化共生－外国人材と日本人の共生文化を助長すること。
- ・ 行政、教育に広い分野に渡るのでタテ割りから横グシを意識して欲しい。
- ・ 役員が大変という意見が多く聞かれました。スリム化、デジタル化が進むと良いと思います。



この報告書は伊那市議会ホームページでも公開しています。

伊那市公式ホームページ>伊那市議会>会議の傍聴・広報・広聴>市民との意見交換会

令和7年2月

伊那市議会事務局 TEL : 0265-96-8149 e-mail : gkj@inacity.jp